



THE EIKO ALUMNI 93

2020年4月1日発行 ©2020 発行人:栄光学園同窓会・山田宏幸 編集人:高橋英治 印刷所:株式会社さんこうどう
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

68期生が卒業 178名が新会員に！

2020年2月29日、栄光学園第68期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに178名が加わりました。卒業生には「同窓会入会案内」と「EACON入門(操作手順説明並びにID、パスワード)」を配布するとともに記念品としてウッドのシャープペンを贈呈しました。シャープペンにMEN FOR OTHERS WITH OTHERSと同窓会ホームページのURLがプリントされています。

2020年6月6日(土)、7日(日)栄光祭開催

〈同窓会定期総会のお知らせ〉

2020年度の同窓会定期総会は6月6日(土)12時より栄光学園アロイジオ会館会議室にて行われます。各期委員並びに支部委員の皆様のご出席をお願いいたします。昼食は用意します。

〈追悼ミサ〉

栄光祭1日目、6月6日(土)の午前9時30分より、栄光学園聖堂にて、この1年の間に亡くなられた教職員、卒業生の皆様の追悼ミサを行います。

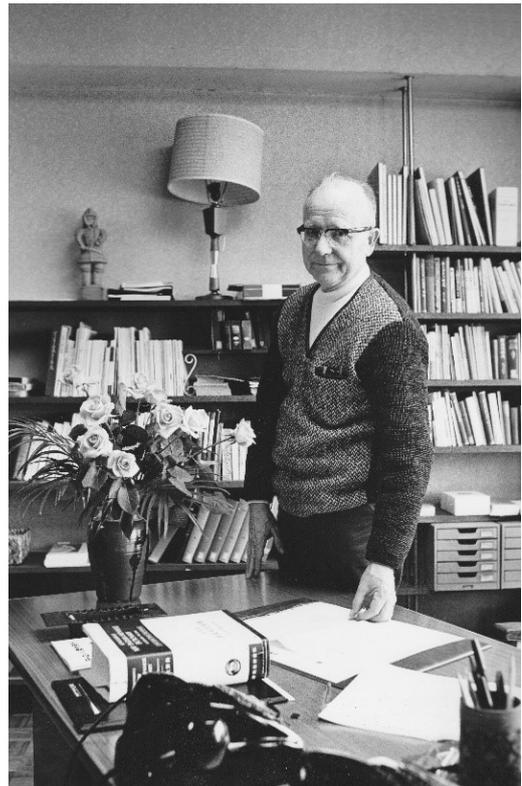
〈OBの部屋 ALUMNI〉

栄光祭開催中の両日、今年もOBの部屋ALUMNIを開きます。会場は聖堂ホールです。お飲みもの、お菓子、サンドイッチを提供しておりますのでどうぞお寄りください。

〈グスタフ・フォス校長ご帰天30周年記念展示〉

1989年にグスタフ・フォス初代校長がご帰天され、今年には30周年を迎えます。これを記念して、栄光学園のアーカイブ資料の中からフォス校長にちなんだ資料を栄光祭で展示いたします。

上記のOBの部屋を開催する聖堂ホールで展示いたしますので、ぜひ懐かしい文章や写真、フォス先生の声も楽しんでください。詳細は同窓会ホームページでもお知らせする予定です。



主な目次 No.93			
学園からのメッセージ	2	OB便り	15
同窓会会長ご挨拶	2	同期会	17
同窓会活動	3	支部活動	27
特別委員会報告	6	歴史文学散歩	33
母校の様子・恩師	12	訃報・お知らせ	36

The Eiko Alumni 93号発行によせて

学校法人上智学院理事長 佐久間 勤

"The Eiko Alumni"に初めて寄稿いたします。栄光学園同窓会の皆様が学園の卒業生、在校生のため大きな貢献をなさっておられることに、敬意を表します。さて、イエズス会によって創立された中等教育と高等教育の5学校法人が、1つに統合されてから満4年が経過致しました。教育精神"Men and Women for others, with others"を共有する姉妹校、六甲学院、広島学院、上智福岡中・高等学校の3校、そしてまた上智大学との連携も次第に密になっています。中高4校の同窓会相互の連携とともに、上智大学ソフィア会との連携、そしてまた全イエズス会学校卒業生世界連盟(World Union of Jesuit Alumni)への加入が検討されて、同窓会活動は全世界に視野を広げつつあります。

法人統合の動機はイエズス会としっかりと関係を保った理事会を維持する、ということでした。それを実現する一つの重要な手段として、法人合併の合意には「イエズス会教育推進センター」を拠点に、栄光学園を初め学院の設置するすべての学校がイエズス会と「共に」歩む学校であり続けるための活動をおこなうという条項が定められました。同センターは各学校のキャンパス・ミニストリーも含めて「カトリック・イエズス会センター」として、識別やリーダーシップの研修、高大連携などの企画を充実させてきています。栄光学園にとっても、上智の海外拠点をベースにしたグローバル世界を体験する研修の機会が増え、法人統合のメリットが生かされつつあります。

昨年7月にイエズス会総長アルトゥーロ・ソーサ神父が日本を訪れ、上智大学と広島学院の学生・生徒との出会いの機会がありました。また11月には教皇フランシスコが来日され、各学校の生徒、学生もそれぞれの地域で、教皇のミサなどに参加できました。教皇は、ブエノスアイレスの大司教に任じられる前は、イエズス会の神父でしたから、そのメッセージはイエズス会的な味わい



学校法人上智学院 佐久間理事長

がありました。イエズス会総長も教皇も、まさしく異口同音に1つのメッセージを私たちにくださいました。学校の評価を決めるのは、学生・生徒が"Man for Others"という精神を身につけて卒業し、その精神を社会で生かしているかどうかにある、というメッセージです。これは卒業生と同窓会への期待の表明でもあると思います。

上智学院各学校の同窓会は活発に活動し、相互の繋がりと、そして後輩への働きかけ、そしてグローバルな視野を広げておられます。これはまさしく"Man for Others"の精神を具体化するものとして、教皇と総長の呼びかけに応えるものとなっています。皆様のいっそうのご活躍を期待致しております。

同窓会長ご挨拶

栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

皆さまのお手元に、この"THE EIKO ALUMNI"第93号をお届けするころ、年明けから世間を大きく騒がせる新型コロナウイルスが、どのような状況になっているか、本稿を作成している段階では、正直見当がつかない中でのご挨拶の文面であることをご容赦ください。

2019年度同窓会は、引き続き、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”をテーマとして事業を進めてまいりました。ホームページは月2回の定期的な更新が軌道に乗り、内容的にも少しずつ充実してきていると思いますし、昨年7月から本格的に運用を開始した"EACON"による会員名簿サービスでは、アクセス数も少しずつ増え、使い勝手も改善されるなど、一定の成果を上げているのではないかと捉えております。とはいえ、ホームページ、EACONとも、より一層多くの会員の皆さまに活用していただけるよう、さらなる工夫と努力、改善が必要であることは言うまでもありません。皆さまから多様なアドバイスをいただき、反映させていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。また、EACONについては、未だログインされていない方もまだまだかなりいらっしゃいますが、是非まず一度アクセスしていただき、e-mailアドレス、住所、電話番号など、情報をアップデートしていただければと思います。

今年度は、これからの本同窓会のあるべき姿を模索するため、中堅、若手の幹事を中心に“栄光学園同窓会のビジョン検討”特別委員会を設置し、月1回の開催ペースの委員会で検討を進めてきました。あるべき姿を自由に模索するとともに、現執行部が先の執行部から引き継いできたものを次へ“繋ぐ”ための礎とすることも加味し、同委員会メンバーが活発な議論を展開してきました。本号でも別途、特別委員会座長から経過報告をさせていただいておりますので、ご

覧ください。また、2020年度定期総会では、2019年度に検討した内容について、ご報告が出来るのではないかと捉えております。

2020年3月19日に、グスタフ・フォス初代校長先生ご帰天後30年の節目を迎え、同窓会では、同窓会ホームページや5月の栄光祭OBの部屋ALUMNIなどで、フォス先生に思いを馳せていただける企画を行います。また、学校内での常設展示なども、学園の意向を踏まえ、学園アーカイブの整理と併せて、検討していきます。詳細はホームページなどでお知らせしますので、是非、機会を捉え、ご覧いただければと存じます。

また今後は、新たなスタイルでのOBフォーラムの試行、イエズス会校4校同窓会の定期的な共同事業の実施、栄光同窓会関西支部設立及び活動のサポート、会費納入方法の利便性向上のための施策と納入率アップのための工夫などを進めてまいります。このように、本同窓会がさらに発展するための“種”は様々あります。少しずつ水をやり課題を改善し、会員の皆さまとともに育てていければと思っておりますので、ご参加、ご協力をお願いいたします。

来たる6月6、7日には、栄光祭が行なわれる予定です。その際は、OBの部屋ALUMNIを開設いたしますので、お誘い合わせのうえ是非お越しく下さい。また、5月9日に予定する2020年定期総会においては、重要な議案や特別委員会の報告などもありますので、多くの委員の皆さまのご出席をお願いいたします。

2020年には、68期生を新たな会員として迎え、また、2023年には同窓会が70周年を迎えることとなります。全ての世代、全ての会員が、繋がりたいと思えば、いつでも、どこかで、何らかの形で繋がることのできる同窓会に近付けていけるよう、執行部一同、頑張っておりますので、会員の皆さまには、より一層積極的に同窓会活動にご参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

同窓会活動

第1回イエズス会校4姉妹校同窓会共同イベント 開催報告

事業部長 増木洋介（30期）

去る9月18日夜に四谷の上智大学食堂にて、イエズス会4姉妹校共同のイベントが開催されました。

イエズス会4姉妹校とは、六甲学院、広島学院、上智福岡、栄光学園であり、同窓会では各校東京支部と定期的な交流を進めてきました。2016年学校法人上智学院上智学院に法人合併以降、さらに4校同窓会の結束が高まり、連

携して準備を進め今回のイベント開催に至りました。

平日19:30開始と遅い時間ではありましたが、参加者は、全111名。栄光57、六甲11、広島24、福岡7、他来賓等

で、大きな食堂がほぼ埋まるほどの方に来場いただきました。来賓としては上智学院佐久間理事長、李理事、曄道理事にお越しいただきました。

開会を待つ間にお弁当とドリンクでおなかを満たしながら、同じテーブルで初めて会う姉妹校の面々でもなぜか自然に会話が弾む感覚には、誰もが不思議に感じたかもしれません。

栄光同窓会長の挨拶で開会の後、4校校長にご登壇いただきパネルディスカッションが行われました。

上智福岡同窓会の菅原氏のファシリテートで、各校校長からそれぞれの校風や特徴、理念が披露され、参加者からの質問にも回答する形でディスカッションが進みました。特に各校卒業生がともに心配している「イエズス会教育の継承」という課題に対するディスカッションについては、改めてこれら問題を考える良い機会となったとのアンケート結果もいただきました。

まだまだ聞き足りない、話し足りないという感覚のまま、21:00過ぎにお開きとなり、各々四谷の町に散って行きました。



六甲学院古泉校長 訓育という授業は防衛大学と六甲学院だけに残っている



上智福岡大石校長 教室に十字架が掲げているのは4校で上智福岡だけ



広島学院三好校長 学院のイエズス会校としての校風が全身からしみ出る



栄光学園望月校長 神父様がいなくなっても
栄光生らしさが脈々と伝わる

参加者のアンケートからは概ね好評をいただいておりますので、今後の第2回開催にもご期待ください。

件での連携を一層深め、引き続き効率的な会務遂行に役立つよう努める。

事業部

事業部長 増木洋介（30期）

2019年度事業報告

A. 同窓会員交流事業

(1) ホームカミング・デイ

例年通り、栄光祭(2019年5月11～12日)においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、飲料や軽食の提供、同窓会事業の紹介等を実施した。今年は66期を幹事期とし当日の運営を任せた。引き続きこの仕組みにより持続的な運営をしておくこととする。

(2) OBフォーラム

準備が整わず残念ながら今年度の開催はできませんでした。今後、持続的に開催できる運営上の仕組みを検討し、定期的な開催を目指す。

(3) 歴史文学散歩

6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年3回の歴史・文学散策を実施した。(3月30日予定の第4回は休止)

(4) JJHAF共同イベント

姉妹校3校の関東支部の方々とは打ち合わせを重ね、初の共同イベントとして2019年9月18日に「イエズス会姉妹校4校長パネルトーク ～4校ジョイント懇親会～」を開催した。同じイエズス会教育を受けた4校OB約100名が上智大学食堂に会し、各校校長による各校教育の様子、今後のあり方等、熱い話題を共有した。今後も継続的な取り組みとしていく予定である。

B. 在校生支援事業

(1) OBゼミ講師派遣

例年通り、高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行った。本年度は29期と39期が担当した。

2020年度事業計画

例年実施している事業をしっかりとおこなっていくとともに、姉妹校との交流事業に取り組んでいくこととする。

A. 同窓会員交流事業

(1) ホームカミング・デイ

栄光祭においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、同窓生交流の場を提供する。2020年度の幹事期は67期とする。

(2) OBフォーラム

持続可能な仕組みを検討のうえ、定期的な開催を目指していく。

執行部 2019年度事業報告と2020年度計画

各部の2020年度事業計画は6月に開催される総会の審議を経て確定しますが、会報の発行時期の都合上、各部長が考える最新の意見を掲載しています。承認された各計画は総会終了後に同窓会ホームページに掲載される総会議事録(10月発行の会報次号にも掲載)をご確認ください。

総務部

総務部長 青木嘉光（10期）

2019年度事業報告

(1) 特別委員会「会員名簿とEACON」では、2018年8月以来議論を続けてきたが、2019年7月に従来の「会員名簿」の印刷発行に代え、EACONによる「会員名簿」の配信を開始することができた。

(2) 学校から依頼のあった「学園資料室」の整理作業のお手伝いを2019年に2度実施し、必要な整理は終わることができた。

(3) 事務局とは、特に「EACONの名簿」配信作業で、緊密な協力を行った。

(4) イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)は2019年11月30日に六甲学院で開催され、会長、副会長が出席した。

2020年度事業計画

(1) 「EACONの会員名簿」の一層の活用を推進する。
新規ログイン会員が増えるよう、プロバイダーの協力を依頼し、会員が一層使いやすい名簿にするべく改善努力をする。

(2) 「フォス校長のご帰天30年特別展」を2020年栄光祭に合わせて開催するとともに、その後のアーカイブの利用についてホームページでの公開などの検討を続ける。

(3) 事務局との連携の工夫について、前年度同様個別案

(3) 歴史文学散歩

6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史・文学散策を行う。

(4) JJHAF 共同イベント

第二回の4校共同イベントを2020年11月14日(土)に開催予定で準備を進める。

B. 在校生支援事業

(1) OBゼミ講師派遣

高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行う。本年度は30期と40期が担当する。

活動サポート部

活動サポート部長 島崎裕之 (26期)

2019年度事業報告

(1) 各期活動支援

今年度も同窓会が把握した情報によると、延べ20回ほど同期会やゴルフコンペ等の活動が開催され、情報が入らない活動も相当数あると思われる。以前に比べ40期代～60期代の若手の活動が活発になりつつある。

(2) 支部活動支援

今年度も同窓会の把握では、22回の活動が行われた。

横須賀～茅ヶ崎にかけての母校地元支部は継続的に活動を行っているが、地方では北海道・北京でも活動が行われた。部活動や業界でも継続的に活動が行われている支部がいくつか見られる。

長年の悲願だった関西支部については、8月より設立準備に着手、3月に設立総会開催の運びとなった。新型コロナ騒動の影響で総会実施は次期に延期されたが、当年度の最大の収穫であった。

(3) その他活動グループ支援

8月25日(日)によみうりゴルフ倶楽部で開催されたオール栄光ゴルフコンペは、前年の猛暑不安があったものの85名の参加があり、盛況であった。

(4) 社会貢献活動支援

今年度も東ティモールイエズス会校への支援を行った。

2020年度事業計画

同窓生の縦横の繋がりを活性化すべく支援を行っていく。

(1) 各期活動支援

各期幹事とのコミュニケーションを強化し、特別委員会において策定しているモデルと連携し、活動の活性化に努める。

(2) 支部活動支援

先送りとなった関西支部の設立総会の着実な開催を目指し、引き続き支援する。またさらなる地域等支部の新設を目指す。また活動の停滞している支部の再活性化を図る。

(3) その他活動グループ支援

本年夏に開催されるオール栄光ゴルフコンペを後援する。各ネットワークを活用し、参加者減少を食い止めるべく動員を支援する。

(4) 社会貢献活動

引き続き、東ティモールイエズス会校への支援等の社会貢献活動を行っていく。

広報部

広報部長 高橋英治 (28期)

2019年度事業報告

(1) 会報アラムナイ

同窓会報The Eiko Alumniは第92号を10月上旬に、第93号を2020年4月上旬に発行した。

(2) 同窓会ホームページ

ホームページは月に2回の頻度で記事の更新を行っている。同時に栄光祭アルバムなどの記事のスタイルを新規に提供した。

(3) EACON

EACONによる名簿データ入力促進を兼ね、2019年5月に会員リストを作成し、配布した。2020年3月に卒業した68期生にもこの会員リストを配布している。

2020年度事業計画

(1) 会報アラムナイ

The Eiko Alumniは10月上旬に94号、2021年4月上旬に95号を発行予定である。一部カラー化検討も含め、会報の体裁について更新を進める。

(2) 同窓会ホームページ

ホームページについては現在の記事更新頻度を維持しつつ、新たな記事の掲載に努める。2019年度から継続し、同窓会のFacebookページの転載、訃報記事の早期掲載について解決を図る。

(3) EACON

EACONの運用については名簿機能を中心に継続して運用を推進する。

財務部

財務部長 近藤亮介 (45期)

2019年度事業報告

会費請求については、口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施した。また、振り込みで納入している会員については、第2グループ732名を対象に、4年分(未納がある場合には8年分)一括振り込みの郵便振替の案内を送付した。さらに、前年度までに請求した第1、第3及び第4グループのうち未納の会員561名にも再度納入を依頼した。

当年度も前年度から引き続き、各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いする等、地道な会費納入依頼活動を実施したものの、会費納入率はほぼ前年(44.9%)と同水準の45%程度となる見込みである。

一方で、前期から引き続き経費の節減と予実管理に努めたが、当期に初めて発行した会員リストの費用等がかさんだこともあり、年度の収支については2百万円程度の赤字となる見込みである(前年は1百万円の黒字)。

2020年度事業計画

会費納入については、前年度から引き続き会費情報のデータベースを利用して、同期会、支部及びOBフォーラム等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。また、より簡単に会費が納入できるようにするため、会費のコンビニ払いについても検討を行っていく。

今後は、会員へのサービスをさらに充実させていくという観点からより健全な収支モデルを構築していき、大きく変化している同窓会を取り巻く環境に適切に対応していきたい。

特別委員会報告

「栄光学園同窓会のビジョン検討」特別委員会のご報告

河原光博 (37期)

村井基彦 (37期)

今年度、山田会長の発案で「栄光学園同窓会のビジョン検討」特別委員会が設置されました。8月20日の第1回以降、概ね月一回のペースで委員会が開催され、2020年2月までに第7回を重ねました。本稿では、これまでの議論の経緯と、現時点までの議論のまとめをご報告します。

なお、特別委員会の設置経緯・目的および第1・2回での議論の詳細は、前号(92号)のALUMNIで紹介されております。そちらもご参照いただきたくご紹介しますとともに、内

容の多少の重複はご容赦ください。

「栄光学園同窓会のビジョン検討」特別委員会設置の目的

「栄光学園同窓会のビジョン検討」特別委員会は、山田同窓会会長のリーダーシップのもと令和元年8月に時限的な委員会として設置されました。背景として、下記の様な視点が課題として示されました。

学園が70周年を越え、毎年180名余りの新規会員が加わりつつ1桁期台がご健在、ご活躍であることから、会員数は12,000人余りの大きな組織となった。

同窓会の基本的仕組みは、当初の少人数でスタートしたときから12,000人になってもそれほど変わっていない。

栄光学園を取り巻く社会情勢も、同窓会と同様に常に変化している。

同窓会としての活動を、同窓会の役割や学園との関係などとの意義付けから整理すべきではないか。

つまり、同窓会の活動の軸を意識しながら、同窓会の活動を時代に合わせてフィットさせて行ける様な仕組みの在り方(これが広義の「ビジョン」と解釈しています)を議論することが、本特別委員会の設置目的です。

なお、本特別委員会は常任委員会や執行委員会に比べるとやや若めで、委員長を河原光博(37期常任委員)、副委員長を村井基彦(37期常任委員)とし、山田会長、関根副会長、増木副会長、前山事務局長、島崎活動サポート部長、高橋広報部長、近藤財務部長の執行部に加え、菅原信夫(18期)、藤野啓介(28期幹事)、中路喜之(29期常任委員)、米山操(30期幹事)、森厚(31期幹事)、内藤文樹(32期常任委員)、大須賀喜彦(39期常任委員)、西條達(40期幹事)、齋藤琢郎(42期幹事)、米村俊彦(43期常任委員)、石田明久(51期常任委員)を加えたメンバーで構成されました。

議論の基礎を揃えるため、ここ数年の同窓会の活動を整理

第1回～第3回までは同窓会の活動について、かなりフリーにディスカッションされました。とはいえ、現状の事実認識は共有しておこうということで、会員が10,000人を越えたここ4～5年(2013年5月～2017年5月 菱沼会長、2017年5月から山田会長)の同窓会活動について、目的別に整理してみることから始めました。図1はそのときの整理に利用したチャートです。

図1を見ていただくと、この間の大きな課題は「栄光学園の70周年記念事業」で、同窓会活動の多くは、この70周年記念事業への協力のために割かれていることがわかります。同窓生向けの企画としては、OBフォーラムも一部は70周年

条(目的)

本会は、栄光学園出身者間の親睦を図ると共に、母校で学んだ高い理想と教養を保ち母校の発展に寄与し、社会に貢献することを目的とする。

当たり前のことですが、同窓会のこれまでの活動もこれからの活動も、「OB同士の交流促進」「母校への貢献」の少なくとも一方には分類されています。

ただし、「母校への貢献」については、学園の主体的な教育方針を踏まえて実践するというスタンスになります。教育の主体は学園であり、同窓会はあくまで「学園の教育方針をサポートする」というスタンスであることについても、あらためて共通認識がなされました。

こうしてみますと、20年近く継続的に実施されているOBゼミは、学園の教育方針を踏まえつつ、同窓会として講師の人選・派遣という「母校への貢献」を実践しただけでなく、担当の期を自動的にバトンタッチする仕組みを設けたことにより、同窓会の役割である「OB同士の交流促進」の一つとして「同期がつながる」という仕掛けになり、建設的に定着したことがわかります。

企画・活動を担当する期をバトンタッチしていくという仕組みは、「活動の継続性確保」にとって、実は大切なキーワードになります。つまり、同窓会の多くの活動はボランティアな

行動で支えられています。企画を実行する中で、幅広い世代がメリットを享受できるように運営することは簡単では無いのですが、同時に「幅広い世代の協力も得ながら」運営するのは、意識をしないと意外と難しいことなのだと改めて感じます。

同窓会の活動と人生の時間軸の関わり

第4回以降は卒業後の時間軸を意識した議論がなされました。これまでの議論を踏まえていくと、同窓会の活動を、世代

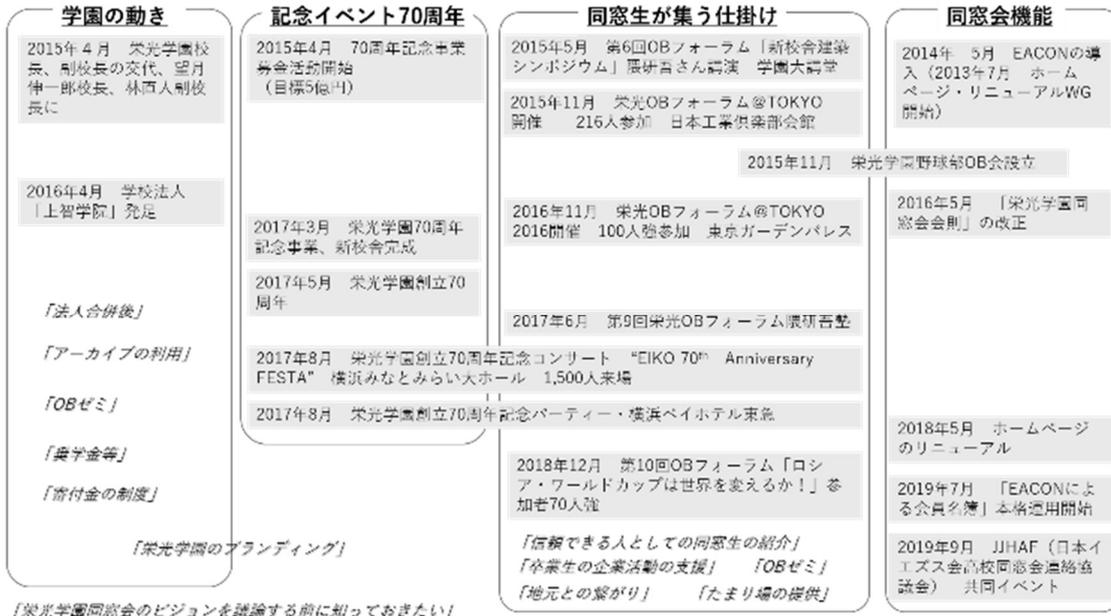


図1:最近の同窓会活動と学園の動き

記念事業との連携を図りながら、年に1~2回のペースで開催されており、同窓生が集うイベントをかなり積極的に実施しています。また、同窓会の基盤となる名簿について「EACON」を導入、また、情報発信のベースとなる「同窓会ホームページ・リニューアル」が実施されており、同窓会としてデジタル媒体を利用できる環境が整備されつつあることがわかります。

最近の活動の整理と共に、活動の方向性についても様々な議論がなされました。栄光学園同窓会会則も踏まえつつ、議論で挙がってきた同窓会の活動目的のキーワードを可視化してみたものが図2になります。

図2は、同窓会会則 第2条で謳われている「同窓会の目的」を可視化しつつ、議論で挙がってきたキーワードを組み込んだイメージ図になっていると思います。

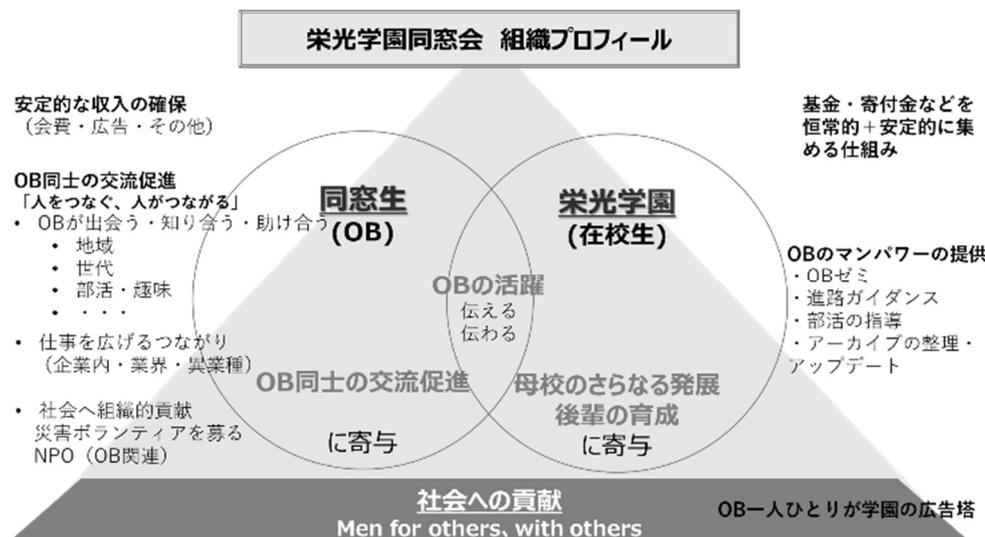


図2:同窓会の活動の軸は何か?

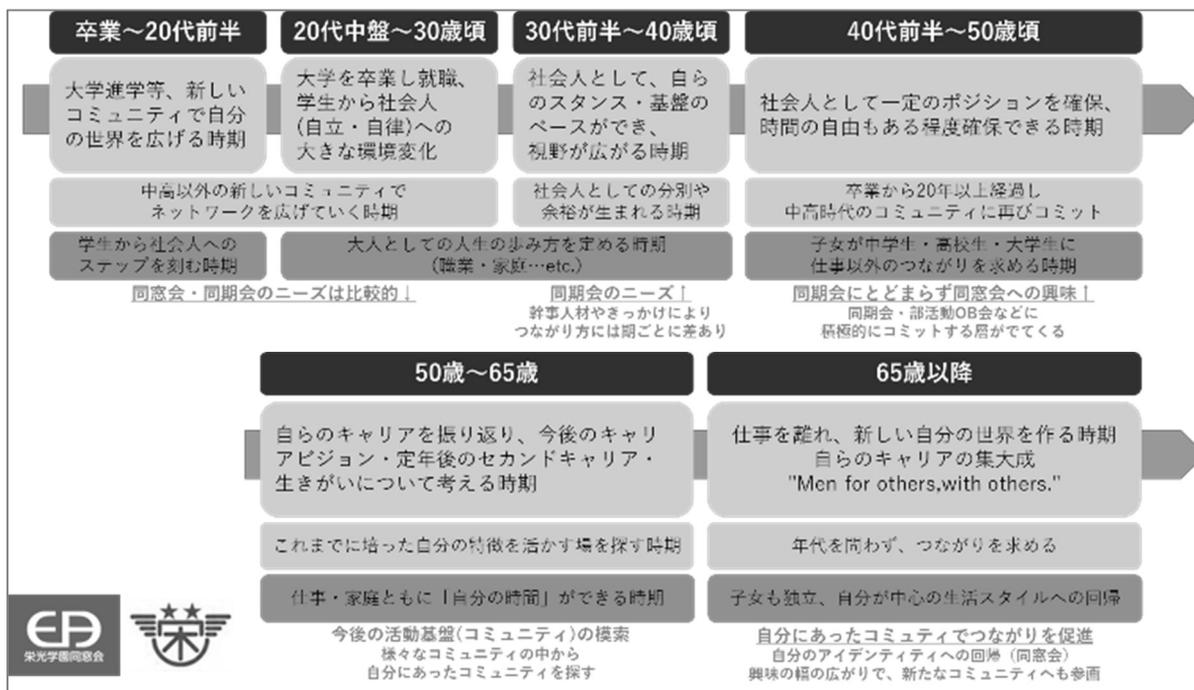


図3: 卒業生の卒業後の一般的な時間軸

交代しながら継続的に活性化していくためには、特定の世代に対し、その世代にあわせた「刺激」を与えることが有効であることが浮かび上がってきたためです。図3は、議論の中で出てきた「卒業後の時間軸」をチャート化したものです。

もちろん、卒業生は一人ひとりの人生を歩みますし、同窓生と同窓会との関わり方は個々で全く異なると思います。ですが、同窓生のつながりについて考えていくと、どの世代でも「同期」が大きな軸になっていると思います。また、早いうちから「同期」がしっかりとつながっている期は、結果として、同窓会の活動を支援してくれる人材を送り込んでいる傾向があるように感じます。各期に確実にいるであろう、「世話役」となる人材を発掘するきっかけとして、「同期会」の開催は有効な手段だと思います。おそらく、本稿を読まれている方の中でも、思い当たる点がある方がいらっしゃるのではないでしょうか。逆に同窓会本部を中心に考えると、「同期会」を開催してもらうことが、同窓会の活動を支える人材発掘の登竜門になっているということになります。

さて、ここで問題です。「栄光学園同窓会会則関連諸規程」の「栄光学園同窓会「同期会」に関する規程」を読むと、「卒業後 ○年目及び □年目および△年目に開催する同期会への補助金」が同窓会から得られることがわかります。○と□と△にあてはまる整数はそれぞれいくつでしょうか。答えは、同窓会のHP内にありますので、そちらをご覧くださいと言いたいところですが、それではあまりに不親切とおしかりを受けそうなので、正解を記載しておきますと、○=10、□=25、△=50です。つまり、該当する期は毎年3つずつあります。読者の皆さんは是非、自分の期が該当する年を確認しておいてください。

また、議論の中で浮かび上がってきたのは「部活動」のつながりです。幸いなことに栄光では、生徒は必ず何れかの部に所属しなければなりません。卒業後の「部活動」の役割は、一つは同じ部としての「世代を越えたつながり」と言う

「縦糸の役割」を、そして、卒業後の同期をつなぐ小グループとしての「横糸の役割」を持っていると思います。また、卒業後も引き続き、「部長」や「キャプテン」が、部活の中で「同期のハブ的な存在」になり続けていることが多いのではないのでしょうか。

正直に言うと、これまでは「部活動」のつながりを、同窓会としてあまり積極的に活用できていなかったように感じます。ですが、「部活動」の潜在力を積極的に活用していくことについては、本特別委員会の議論の中でも、おおよそ異論は出ませんでした。

そうは言っても、部単位でOB会を結成し、定期的にOB会を実施している部もあると思います。本稿の読者の中にも、自分が所属していた部がどのような活動をしているかわからない、あるいは部の先輩や後輩とつながっていないという方もいらっしゃると思います。

現在の「同窓会名簿」の役割を果たしているEACONでは、所属した部活動による絞り込み検索機能があります。ぜひご活用ください。EACONでは他にも、出身大学や勤務先や業種等による検索など、従来の「冊子版」同窓会名簿ではできなかった様々な「つながりのきっかけ」を掴むことができます。操作性も日々レベルアップしており、従来より格段に使いやすくなりました。スマートフォンでの活用もオススメです。少し余談になってしまいましたが、議論の紹介に戻ります。

第7回では、前回までの議論をベースに年代別の同窓会事業・イベントを整理し、同窓会は各年代にどのような関わり方をしているのか、同窓生は、同期の「横軸」や年代を越えた「縦軸」を通じ、どのように同窓生同士のコミュニティにコミットしていくのか、について議論しました。図4は、議論のた

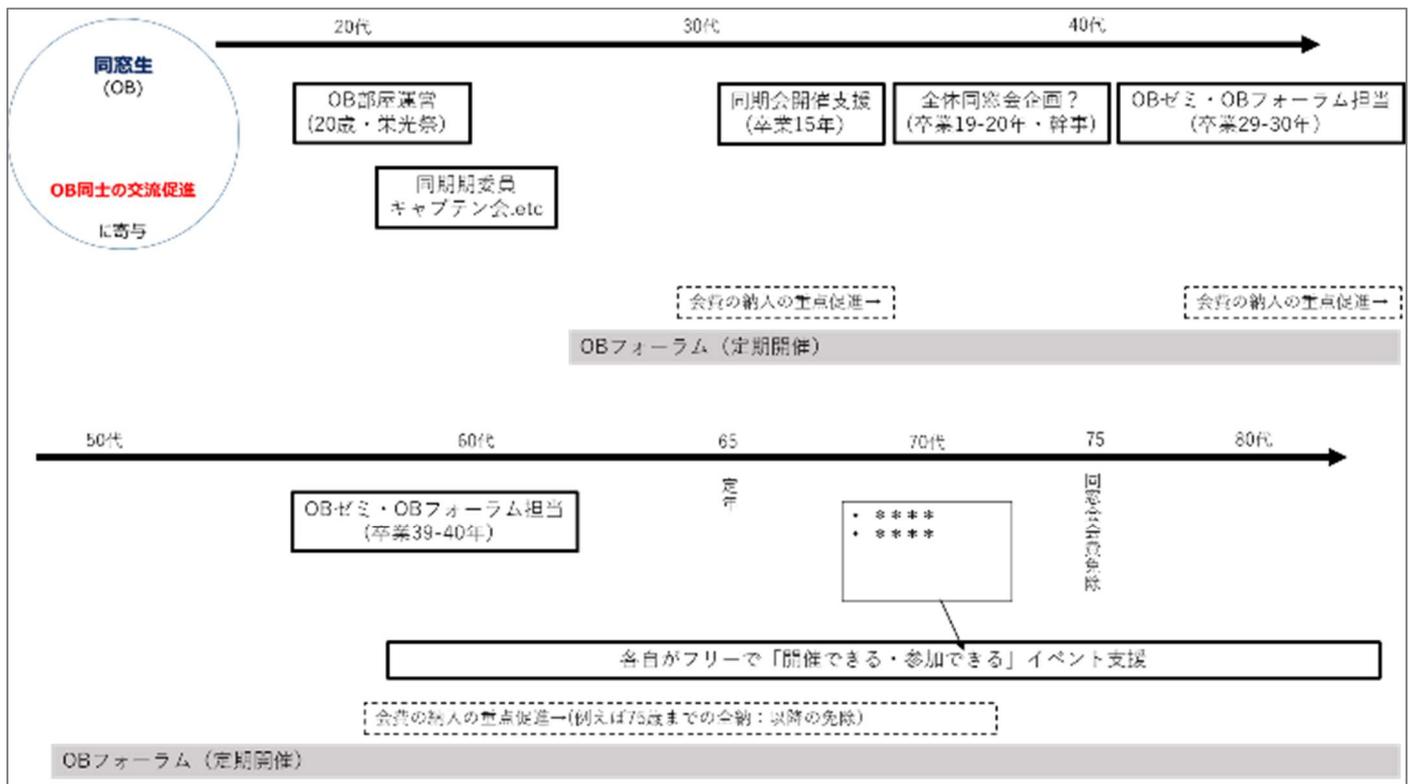


図4:同窓会が支援・企画していくイベントと対象年代の整理

たき台として、同窓会が支援・企画していくイベントと対象年代を整理したものです。

図4で、太枠線で囲み表示しているものが、これまでの議論を踏まえつつ、同窓会が今後積極的に関わりながら、各年代に仕掛けて行こうというイベントとそのタイミングです。

この中にはすでに実践されているものも、これまで全く実践されていないものもあります。例えば、50代後半からの「各自がフリーで「開催できる・参加できる」イベント支援」では、栄光同窓生が社会人として培ってきた様々な知見・経験やつながりを、会社や業界や年代の枠組みを越えて、社会に還元できる場を提供するような活動の支援等も、アイデアとして議論されています。

世代によって感じ方は違うとは思いますが、図3と見比べながらイベントを確認していただくと、企画やイベントの趣旨については、おそらくご理解いただけるのではないかと思います。

あとは、同窓会がどの様に企画もしくは支援して行くのかということになります。先ほども触れましたが、同窓会として「継続的」に活動を企画もしくは活動支援するのか、イベントにあわせ「タイムリー」に企画もしくは活動支援するのかの判断も大事になると思います。継続的に企画・支援を行っていくためには、活動主体が常に若返って行く、あるいは順番に世代を引き継いで行く仕組みが必要になってくるでしょう。一方、タイムリーな企画・支援については、その企画に賛同する幅広い世代が関われる仕組みが必要になってくると思います。このあたりの企画・活動支援の判断軸については、

今後の特別委員会において議論し、具体化して行く必要があると思います。

同窓会の活動費を支える仕組み

同窓会費の問題は、必ずしも本特別委員会の主題ではありませんが、同窓会のビジョンを中心に同窓会活動について議論していると、各活動を支える財政基盤である「同窓会費」が、議論の合間合間に顔を出して来ました。同窓会費については前号にも掲載されていますので、そこから引用しますと、『現在の同窓会会費は一人年間2,500円、会費免除外の会員は約9,000人。会費納入率は2018年度47.0%、2019年度44.9%。初年度の入会金などを加えると、平均して年間の収入総額は12,000千円前後。これが、同窓会活動の目的別に次のような割合で支出されています。』

同窓会運営費(事務局関係人件費・物件費)	44%
会員の親睦関連の費用(事業費・活動支援費)	49%
母校寄与の関連費用(OBゼミ・JJHAF・HCデイ)	5%
社会貢献関連費(東チモール)	2%

図6はその内訳を円グラフにしたものです。支出項目を見ると、実質的には固定費が約4割強で、定常的に活動している支部などの活動費が約5割です。前節において非常にうまくいっていると紹介したOBゼミについては、その支出は実は5%に満たない額ということがわかります。

それとは別に、前号での記述で気になるのは、会費納入率が45%前後であることと、75歳以上が免除になるということは、つまり会費納入対象会員数は180人×(75歳-18歳)≒10,000人以上にはならない、ということの2点です。

この事から、同窓会の活動費を増やすには、「会費の納入率を上げる」、「会費を上げる」、「その他からの収入を得る」の3つしか無い事がわかります。幸いなことに、これは「3択」ではなく、複数の方法を選択することも可であるということです。本特別委員会の議論の底流にも、同窓会員に有意義とじてもらえる企画や活動支援を行うことで、自然と会費納入率が上がる、逆にそのような企画や支援とは何かという命題が流れていると思います。

このような考え方をベースに考えると、同窓会の活動に対し年会費の2,500円が適正な金額なのかの評価は、「活動の実績」が問われる事になると思います。同窓会の活動に年額2,500円以上の価値を感じないと感じていらっしゃる方には年額2,500円に足る活動のイメージを、年額2,500円以上の活動をしているなあと思われた方には、2,500円以上の価値があると感じる活動のイメージや適正に感じる会費額を、広くタイムリーに同窓会が汲み上げる仕組みがあればいいなあ、と議論を通し感じています。

年会費とは別の収入の手段については、委員会の議論の中で「栄光のブランディング」というキーワードで少し議論がなされました。平たく言えば栄光学園グッズの企画・開発と販売と購入・寄付になります。これについては、母校のイメージにも直結することですので、同窓会の意向のみで実行するのは難しいと思います。しかし、安定した収入につながる効果的なアイデアの一つだと思いますので、議論の中でこの様なアイデアも挙がったことを、この場を借りて報告させていただきます。

特別委員会の報告の〆として

ここまで、特別委員会の活動報告として、多少の主観を交えながら記してきましたが、山田会長より「特別委員会として同窓会のビジョンの議論を主導して欲しい」と言われたときに、どうしたものかと思いました。山田会長は就任時より、“Men for others, with others”をベースに、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”というスローガンを打ち出していました。今回の特別委員会での議論を通して、“Men for others, with others”は栄光の同窓生を繋ぐ普遍的な思想感であることを実感しました。また、同窓会とは、人と人との関係がとかく希薄になりがちと言われる現代の社会において、“人を繋ぐ、人が繋がる”ためのお手伝いをし続ける役割があると再確認した次第です。

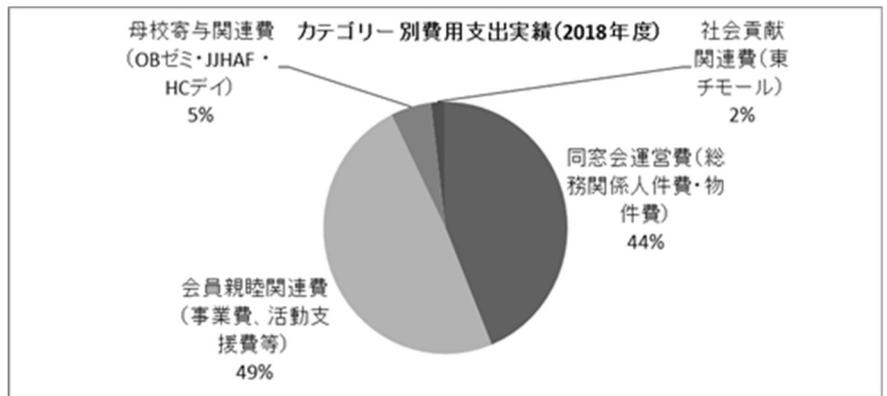


図6: 同窓会費の支出内訳(前号から再掲)

その思想感を踏まえつつ、「10代後半から80代までの同窓生が、栄光学園の卒業生としての繋がりを実感し、誇りを持って生き活きた人生を送る」、この無形の解を探求することに、同窓会が少しでも会員の皆様のアシスト役を果たせるように、今後の検討では、もう少し具体的なアクションプランを提示できるよう、引き続き議論を続けていきたいと思えます。

「フォス校長ご帰天30年」特別展の企画について

総務部長 青木嘉光 (10期)

栄光学園の創設者、初代校長・理事長のグスタフ・フォス神父様をご帰天されてから、本年3月19日で30年になります。同窓会では、昨年行った学園資料室のアーカイブ整理作業の際、これを知り、是非その功績を偲んで、懐かしいフォス校長追悼の特別展を開催したいと思い、学園資料室の協力を得て、準備を進めております。

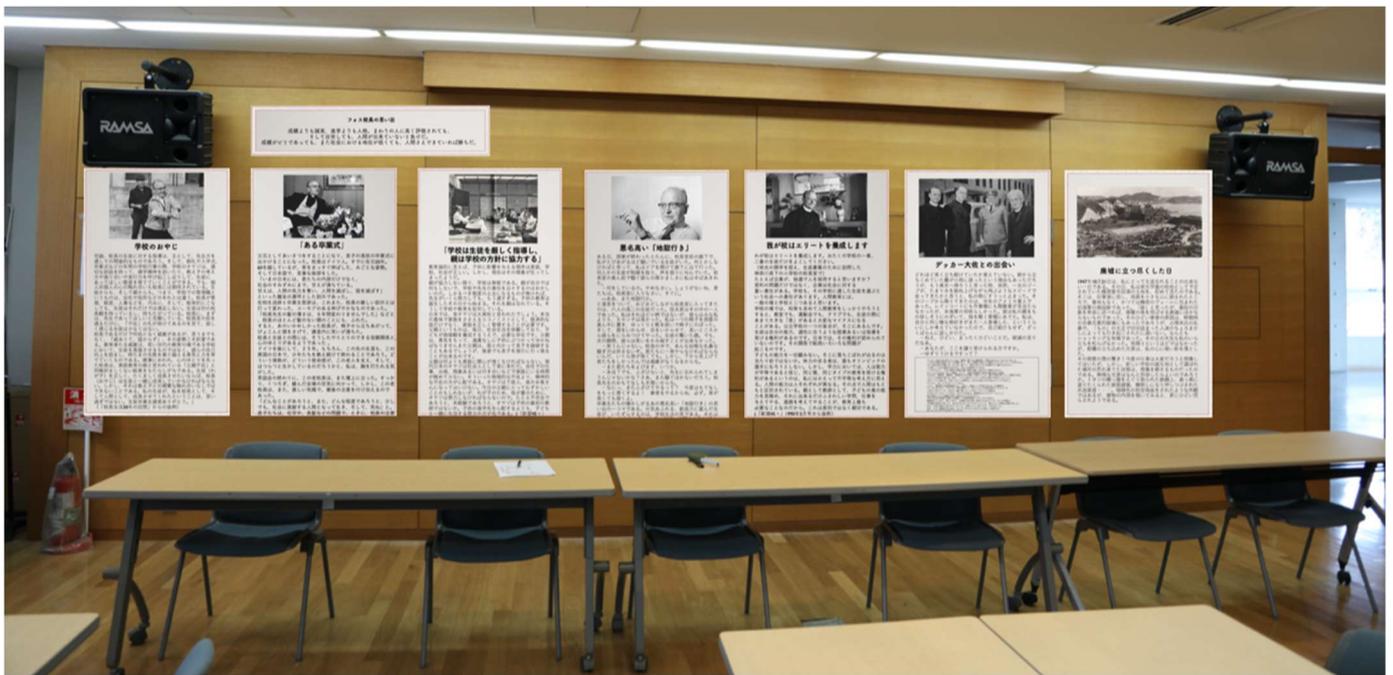
フォス校長は日本教育界でも有数の論客でありました。その主張は一貫して、「良い人間の育成」という信念を貫き通されました。そして「教育的に言えば子供に影響を与えるのは、まず家庭、次に学校、最後が社会だとし、特に父親の関与が重要である。」と説いておられました。

フォス校長の信念の足跡を、ドイツでの「生い立ち」から、デッカー大佐の「教育に関する占領政策」、悪名高い「地獄行き」など、数多くのお言葉と写真、そして懐かしい音声や遺品で振り返ることを考えております。

展示期間は栄光祭の開催に合わせて、6月6日(土)、7日(日)の2日間。

展示場所は聖堂ホールで栄光祭期間中開かれる「OBの部屋」を借ります。

展示形態は聖堂ホールの壁に、写真や文章で「私の生い立ち」、「廃墟に立ち尽くした日」、「デッカー大佐との出会い」、「悪名高い地獄行き」、「ある卒業式」、「学校の



聖堂ホールでの展示イメージ

オヤジ」など、15枚程度のパネルを掲示いたします。その前の机上には「自筆のノート」、「校長申請書」、

「学則」、「映画鑑賞に関する規定」や「The English Hour」などの教科書、「オナスカード」など当時を偲ぶ書類などの展示も致します。また、音声データから「私の教育論」（NHK第一）など、フォス校長の声を聞けるブースの設置を考えています。

この特別展は、もちろんフォス校長の追悼のために企画するものです。ただ、この展示を通して同窓会員の皆様から度々寄せられる次のような声へのお答えに少しでも役立てばとも思っております。

・田浦時代の卒業生からよく聞かれる、「今の船校舎へ行っても、昔を偲ぶものが何もない。」という声。

・総会やOBフォーラムなどで卒業生が心配そうに言う、「昔の栄光学園の教育はどうなってしまったのか？」(例：2017年総会23期「私たちが在学していた頃は、外国人神父等多様な方々と接することが出来ました。今イエズス会神父はいなくなり、多様性が失われてきていると思います。」など多数)という声。

・学園資料室には貴重なアーカイブが保管されている。「年に一度くらいは公開する機会があってもいいのではないのか」という声。

今年の栄光祭、6月6日(土)と7日(日)には、是非とも、多くの同窓会員の皆様に大船の新校舎へ足を運んでいただき、「フォスさん」を偲んでいただければと思います。

また、この特別展をご覧になってのご感想などを事務局までお寄せいただき、今後の同窓会活動に生かしていければと思っております。

2019年度OBゼミ

事業部

2019年度OBゼミは29期と39期が担当しました。講師とタイトルは以下の通りです。

29期

- 5月8日 石井 慎一郎 伊藤忠リーテイルリンク
総合商社のしごと 海外 18 개국での経験から
- 5月15日 佐藤 政男・原田 冬彦 テレビ東京・フジテレビ
テレビ局 現在・過去・未来
- 5月22日 市川 健太 日本政策金融公庫
財務省で働くということ
- 6月5日 松原 秀樹 ミーレ・ジャパン株式会社
多国籍企業での仕事
- 6月12日 佐野 元 電通
令和の時代、広告会社 電通はどうなっていくのか？
- 6月19日 五十嵐 千秋 華為技術日本株式会社
写真でみる製造業とエンジニアの仕事
- 6月26日 松村 一 東京医大(形成外科)
医学部にいき、医師免許を取って、将来何をするのか？
- 10月2日 宮崎 一徳 参議院(事務局)
多元的政策提言の時代に
～ 国会スタッフとしての経験から
- 10月9日 佐々木 宏 JAXA国際宇宙探査センター
国際宇宙探査 ～人類は月・火星を目指す
- 10月23日 久世 正弘 東京工業大学
素粒子物理学への誘い ～ミクロの世界と宇宙のつながり

10月30日 松原弘行・秋田成幸 丸紅ヨーロッパ、大和証券キャピタル(ロンドンより中継)

目からウロコの海外生活 海外留学と海外駐在の実例

11月6日 佐々木 康浩 三菱総研

社会課題解決に挑む シンクタンクの仕事術

11月13日 石井 誠 上大岡法律事務所(弁護士)

プロフェッションとしての弁護士 ～生涯人助け～

39期

11月20日 伊藤 正人 株式会社KADOKAWA

小説編集の最前線

11月27日 末吉 一敬 アンドカンパニー株式会社

インターネットメディア事業とは

12月4日 山本 芳久 東京大学 大学院総合文化研究科

哲学に触れる / 感情に触れる

1月15日 鈴木 順 元麻布ヒルズデンタルクリニック歯科医

興銀マンから歯科医へ

1月22日 加来 量一 株式会社バンダイナムコ研究所

「アソビ」の未来を考える

1月29日 木村 大 大成建設株式会社

ゼネコン現場人生22年

2月12日 吉武 明弘 埼玉国際医科大教授 心臓外科医

心臓を止めるという仕事

2月19日 北島 一 防衛省 統合幕僚監部

災害派遣について

2月26日 中田 和幸 財務省・現東京国税局総務部長

財務省の仕事

3月4日 遠藤 亮 横浜南共済病院 耳鼻咽喉科部長

大学選択と医師の仕事 臨床医の立場から

3月4日 村田 聡一郎 横浜市立大学大学院医学研究科

臓器再生医学准教授 (新型コロナウイルス対策で休講)

※ 飯舘村は、村内にある3つの小学校と飯舘村中学校を統合し、2020年度4月から小中一貫の義務教育学校の開校を目指しています。今回、これを踏まえて、5つのグループに分け、飯舘中生と栄光生で「どんな学校がいいか？」を話し合いました。

7(水) 午前:学童・こども園での交流活動。午後:同上意見交換(第2部)

8(木) 午前中:意見交換内容の発表。小中の教職員や村長、教育委員会の方がお忙しい中、時間をとって、発表をみていただきました。

今回は初めて、学童やこども園で交流活動を行いました。学童では小学生と遊んだり学習支援をしたりし、こども園では園児に紙芝居を



学童・こども園での交流活動

読んだり、プール遊びの支援などをしましたが、どちらも栄光生は大活躍でした。

飯舘中生との「義務教育学校の未来」に向けた意見交換では、「楽しい未来」をイメージしながら行われるはずでしたが、栄光生が聞いた飯舘中生の声は、意見交換の方向を大きく変更するものになりました。今回の研修旅行で、栄光生は深く考えさせられたのではないかと思います。また、来年度以降の飯舘村研修旅行についても、大きな課題を突きつけられた気がします。

以下に高2 N君の感想を紹介します。

今回、私は飯舘村研修に参加させてもらった。被災地に行くのは初めてだったので、あの震災から8年が経っているとは言え大きな衝撃を受けた。

1日目は浪江町などを回り、村の人の話を聞くことが出来たが、飯舘村を含めた被災地の現状は非常に厳しいと感じた。震災後、全国各地に避難した住民は避難指示の解除後もなかなか帰ってこず、戻ってくるのは高齢者ばかりで過疎化と高齢化が深刻になっている。行政もこれと言った対応策を見つけられず、箱物行政に頼っているように見受けられる。私自身この街が10年後、20年後どのような街になるのかイメージすることは全く出来なかった。過疎化や高齢化が進む現状は被災地に限ったことではなく、日本の地方の未来の縮図であるとも考えることが出来る。復興の方法について被災地のみならず全国で自分事と捉え、考えていく必要が

母校の様子・恩師

「学園通信」より

八木英樹 (9期)

1. 飯舘村研修旅行

8月上旬、中3・高1・高2の25名が福島県相馬郡飯舘村で活動しました。

5(月) 昼過ぎ福島駅集合、浪江町をバスで巡る。夜、宿舎で村民5名と対話。

6(火) 午前:学童・こども園での交流活動、飯舘中生徒との交流。午後:飯舘中生と栄光生の「飯舘村義務教育学校の未来」に向けた意見交換(第1部)。

あると感じた。

2日目以降は飯館村の子供達との交流がメインだった。意見交換は当たり前のことをあげそこから改善を考えようと言う議論で始まったが、彼らが強く言っていたのは当たり前を変えたいのではなく、当たり前、普通の学校になりたいということだった。毎日のようにメディアが訪れ、栄光との研修のようなものは大小合わせると年100回弱、1学年の生徒数は二桁に達するかどうかの規模である。交流じゃなくて授業を受けたい、メディアなしでリラックスした学校生活を送りたい、クラス替えをしてみたい、自主的な活動してみたい、そんな彼らの願いを聞かされ、身につまされる思いだった。今まで考えてもみなかった本音や、被災地の現状を知ることができ、今回の研修は大変貴重な経験になったと思う。

最後に、今回の研修でお世話になった方々、そして引率の先生方、本当にありがとうございました。

2. ボストンカレッジ “Ever To Excel”プログラム



Small Groupでの活動

昨年7月27日から8月4日まで、本校生徒30名(高1・高2)+清泉女子高等学校10名がアメリカのボストンカレッジ “Ever To Excel” プログラムに参加してきました。

4年目となる今年のプログラムでは、日本、アメリカ、アイルランド、ベネズエラ、ジャマイカの高校生と現地大学生メンターが参加し、総勢200人以上が「自分」を見つめなおすきっかけを得ていました。(引率:葛西、ティエンポ、片居木)

3. 第69回体育祭 実行委員の感想

実行委員長 U君

僕が体育祭にかかわるようになったのは、高一の時だった。前企画部門長のF先輩に実行委員をやらないかと誘われて、そのまま体育祭実行委員会に参加した。そこで、体育祭にむけて夏休みから実行委員が活動していることを知り、自分もその一員として活動していくなかで、その大変さを知った。

今年の春、体育祭に実行委員長として参加してみたいという思いで、実行委員長選挙に出馬し、当選できた。しかし、先生方から、「え？君が勝ったの？」「何があった？」などの反応！あの優しい高田先生から「U君！？ ええ～～～…」と言われてショックだった。

このような形で僕は実行委員長となったのだが、最初は仲の良かった他の部門長と、体育祭の方向性の違いで不仲になってしまったり、部門員のミスを過度に責めたり。実行委員長としての僕の行動は称賛されるものでなかったと思う。

そんな中、僕を支えてくれたのは実行委員をはじめ、ぼくの周囲の人々だった。僕のつまらないギャグに笑ってくれた実行委員や、僕が疲れている時にねぎらってくれた同輩、先輩、活動風景を盛り上げてくれた後輩に、何度救われたことか。

開会式での緊張すぎたスピーチや、閉会式での、聞こえづらかった「勝手にシンドバッド」などの失敗があり、たまに実行委員長に出馬したことを後悔していた。それでも、委員長として活動した体育祭は楽しかったので、務められたことを本当に良かったと思っている。

最後に実行委員、応援団、そして、すべての体育祭にかかわってくれた生徒や教職員の皆様に感謝を申し上げたい。…「RAY」だけに…



秋のキャンプ

4. 中学1年(73期) 秋のキャンプ@富士緑の休暇村

K君

「どうすればみんなに楽しんでもらえるか？」僕たちキャンプ委員はこのことを考えて秋のキャンプの準備をしました。主にしおりを作る、夜の集いのレクを考える、バスレクを考えるという3つの事を行いました。



アルカラ先生卒寿 記念写真

1番大変だったのは、夜のレクを考え、実行する事でした。僕たちが夜レクで行う事を決めるときに大事にしたのは、みんながどうすれば楽しんでくれるか？ということ。すぐに多数決で決めずに議論をするということです。僕たちは夜レクで謎解きをやりました。その準備の中で1番意見が分かれたのは、問題を自分たちで「オリジナルのものができるから」「達成感がある」という意見。一方、本ものを使いたい人は「難しい問題ができる」「短い時間で準備できる」という意見で分かれていました。

この問題についてキャンプ委員みんなで3～4日議論した結果、残りの準備に使える時間を考え本の問題を少し変えて出すことになりました。このことが決まりの後、急いで準備した結果、キャンプ前日にやっと準備が終わりました。そして、本番は45分間で問題を解いてもらうはずでした。しかし、夕食の時間のズレやキャンプ委員がうまくみんなをまとめわからなかったことから25分しか時間が取れませんでした。

でも僕は今回の準備は決して無駄にはなっていないと思います。僕は今回何かを決め、みんなをまとめて実行することの難しさをとても感じました。今回の経験をこれから繋げていきたいと思います。

アルカラ先生 卒寿のお祝い

佐々木康浩（29期）

2019年12月、アルカラ先生は、満90歳の卒寿を迎えられました。この数年以内に、アルカラ先生関係で集まっていたいただいたことのある方に声をかけました。

12月15日に、イエズス会の神父さま方が静養されている上石神井イエズス会ロヨラハウスに、20名の方が集まりました。上は20期、23期、29期、下は42期という幅の広さです。

アルカラ先生の話はあっちこちに行きますけれど、相変わらずおしゃべり好きで、お身体はお元気そうでした。



フランシスコ・ローマ教皇との謁見

11月には、来日されたフランシスコ・ローマ教皇と四ツ谷で謁見されたそうです。ハウスの方に写真を見せていただきました。それが、参加者にとっては何よりの朗報でした。

また、集まれる会を企画したいと思っています。

鶴見川の治水

齋藤 肇（7期）

鶴見川の恒久治水対策

2019年10月、台風19号の襲来により各地の河川の氾濫・決壊が相次いで報じられました。鶴見川は町田市の源流から鶴見河口までマラソンと同じ42,5キロの一級河川です。かつては大雨の度に下流の鶴見、港北地区中心に氾濫し大きな災害を発生し当時日本でも有数の悪名高き河川でした。

私の現役時代にも鶴見駅付近の東海道線高架橋ゲタ近くまで冠水し東京横浜間が全線不通となり徒歩で帰宅した記憶があります。これらの教訓を猛反省し鶴見川は流域の新横浜、川和等に大規模な治水対策を施しました。特に新横浜ではワールドカップラグビーが開催された横浜総合競技場周辺に幾つもの大グラウンドを造成し普段はサッカー、野球等の競技場として使用していますが大雨の時には遊水地として巨大な水がめとなります。

台風後遊水地近辺を訪れましたが巨大な池が幾つも出現し普段とは違う景色に驚きました。総合競技場地下も大雨時には大きな貯水池となります。

これらの対策により下流の鶴見、港北地区への激流を抑える事が下流での氾濫を止める要因の一つになっている事は間違いありません。

台風19号でも初期には危険河川として鶴見川の名前も出ていましたが影響はほとんどなかったようです。鶴見川は流域の堤防を強化するよりも用地確保等の問題がありますが激流を抑止する遊水地方式を取った事が正解であった事を証明しているようです。

当初は無駄な投資と思っていました数年貯水センターを訪ねた折説明員が鶴見川は100年に耐える恒久対策をとったとの説明を思い出しました。

総合治水計画

昭和52年度からの「総合治水事業5ヶ年計画」について栄光学園7期米澤潤一さんは大蔵省主計局担当主査として策定に心血を注ぎました。

建設省と議論を重ねその目玉の一つに鶴見川新横浜周辺の「多目的遊水地」制度の創設がありました。これはロンドンのテムズ河をモデルに建設省が提案してきましたが関係省庁の調整が難航し最後は米澤さんが直接乗り出し各省庁を説得し実現致しました。

米澤さんは長い財政経験の中でも記憶に残るクリーンヒッ

トであったと述べています。

10月16日に新横浜の「遊水地管理センター」を尋ねました。

近隣の小学校3年生の一行が課外授業で熱心に係員の説明を受けていました。

誠にタイムリーな企画に驚きましたが台風被害にあわなかった子供たちが生き生きしているように見えました。鶴見川多目的遊水地は昭和33年の狩野川台風等の鶴見・港北水害の教訓をもとに平成15年に運用を開始し総貯水量は390万m³ですが戦後2番目の雨量となった平成26年台風18号時には開始以来最大の154万m³の貯水を行いました。

今回台風19号は開始以来21回目の貯水で未だ計測が出来ていませんがラグビーの激闘が行われたスタジアム下にも貯水しましたがまだ余力があったようです。（確定93.6万m³）

鶴見川は川和の地下鉄車両基地地下他にも多くの遊水地があります。

40数年前「テムズ河」モデルにどの程度の事を学んだのかは分かりませんが最近の日本は付度が横行し先人の残した貴重な財産が国土を守る要である事を忘れ「大きな自然の変化」に対応出来ていない事が日本丸の崩壊に繋がる事を懸念致します。

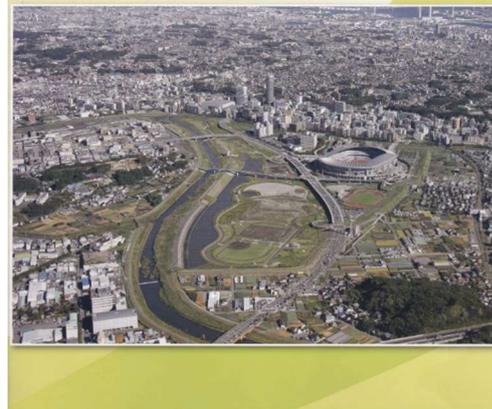
若い頃桐生に住んだ友人から鶴見川同様かつての暴れ川渡良瀬川も大遊水地を造成し今回の自然の猛威を静かに受け止めた事実を知りました。堤防の強化・補強には広域に渡る事もあり限界があり用地確保の課題はありますが幾つものストックポイントを造成し激流と向き合う遊水地又はダム方式が合理的ではないかと考えます。

将来を見据えて重要な課題に適確な投資を実行した事が今回の各地の河川氾濫が相次ぐ中で最大の効果を発揮したのだと思います。

鶴見川多目的遊水地の教訓

鶴見川多目的遊水地

～ 洪水から暮らしを守り、安らぎを創出 ～



遊水地管理センターパンフレット

昭和52年「総合治水事業5ヶ年計画」が策定されその目玉の一つとして平成15年「鶴見川多目的遊水地」が運用開始となりました。

「鶴見川多目的遊水地」の総貯水量は390万m³ですが16年間で21回目の貯留が実施され戦後2番目の大雨時の平成26年10月の154m³が過去最大でしたが今回の台風19号は93.6万m³(24%)の貯留で済み余力充分に静かに自然の猛威に向き合う事が可能でした。

私は台風19号直後昭和33年の狩野川台風以降相次ぐ大水害を受けた鶴見、港北地区を尋ねましたが地域住民が何事もなかった様に平穏に日常生活を続けている事に感銘を受けました。

台風19号の猛威により東日本中心に70近くの河川が決壊氾濫致しましたが下流での堤防の強化、補強も必須ですが上中流での遊水地貯留がいかに重要であるかは鶴見川、渡良瀬川が教えてくれています。

広報部註:

この原稿は多大な被害をもたらした2019年の台風19号の被害に対し、7期米澤潤一氏が横浜市の鶴見川の治水に尽力された施策を解説いただいたものですが、台風直後に原稿を預かったものの半年も経っての掲載となり、OB便りとして編集させていただきました。このため、台風被害の記録等の数表は割愛させていただいております。ご了承ください。

栄光学園14期の故天野之弥IAEA事務局長を偲ぶ会の開催

桂 誠 (14期)

写真: 新井 隆 (14期)

2019年12月17日、IAEA(国際原子力機関)事務局長を2009年から務められ、2019年7月18日に在職中のまま逝去された故天野之弥氏を偲ぶ会が、帝国ホテルで開催されました。

安倍総理大臣が出席し、軍縮、核不拡散、原子力平和利用に関する故人の功績と貢献を高く評価するスピーチが行われました。

外務省関係者(栄光25期の秋葉外務次官を含む)、約20名の国会議員、原子力関係者、学会・プレス関係者をはじめとする約300名が出席して、順次、遺影に献花。上記の安倍総理のスピーチを拝聴した後、故人の一生を振り返る写真・動画の映写を見たり、立食懇親を行ったりしながら、故人を偲びました。

栄光14期は、10名が出席しました。うち8名が写った写真を以下に添付します。

14期以外の栄光出身の外務省OBが数名、栄光出身の外務省現役が上記の秋葉次官を含め数名、出席しました。

外務省関係者ではない栄光出身者については、栄光同窓会のHPを見て参加した方が居られたか不明です。



故天野之弥IAEA事務局長を偲ぶ会に列席した14期の面々

「故天野之弥IAEA事務局長を偲ぶ会」発起人一同様の案内文からの引用

天野氏は、1947年神奈川県湯河原町に生まれ、神奈川県葉山町で育ちました。弟の万利氏とともに栄光学園に通い多くの友人を作りました。しかし、ご両親が早逝されたためご苦労されたとも伺っています。大学では英語会(ESS)で活躍、更には読売新聞社とともに全日本中学校英語弁論大会を共催する学生団体・日本学生協会基金のメンバーとして大会の準備など

に奔走し、ここでも多くの友人を作りました。発起人の中にもそのOB・OGが複数含まれています。その後、外務省に入省、フランスで研修した後、軍縮・不拡散問題を手掛けて東京・ジュネーブなどで活躍し、ウィーンで日本代表部大使として国際原子力機関(IAEA)理事を務めました。2005年、IAEAがその活動に対してノーベル平和賞を受賞した際には、理事会議長として天野氏がオスロで授賞の栄に浴しました。そのような時、IAEA事務局長交替の選挙があり、日本から天野之弥氏が推挙されました。いつものごとく選挙は混迷し長期間苦勞されましたが、2009年初めに見事当選を果たしました。この間の本人や関係者のご苦勞は今でも語り草になっています。

(中略)

天野氏は、政策面でリーダーシップを遺憾なく発揮されるとともに、多くの各国職員にその人柄を愛されていました。これは、IAEAでの追悼式において多くの人が別れを惜しむスピーチの中で讃えるところでした。

忙しい仕事の合間を縫っての私生活でも天野氏の活動は多彩でした。若い頃から馬とヨットの愛好家で、休暇の際は、夫妻で乗馬を楽しんだり、アドリア海でヨットを走らせたりするような面もあったそうです。また、毎年ホフブルク宮殿で開催されるIAEAのバル(伝統的舞踏会)では、学生時代に習得したワルツの華麗なステップを着物姿の夫人とともに披露し、参加者一同を驚かせました。

風を一杯に受けた順風満帆の人生でしたが、天野氏は、私たちの前を颯爽と、しかし余りにも早く通り過ぎてしまいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

同期会

話題は、「葉山小学校」から「シンギュラリティ」まで。

【四期同期会／2019】 報告

四期事務局 鈴木宙明 (4期)

今年の四期生同期会は10月5日午後、昨年と同じ《ホテル横浜ガーデン》で開かれました。会費も6000円と同じ、今年の出席人数は100名中27名、昨年と異なり当日のドタキャンはなし、でした。

スピーチは四人。「シンギュラリティ(人工知能・AIが人類の知能を超え、世界に変化をもたらすこと)」や「我々1937年生まれの死亡率が低い事由」を語るヨーロー先生、「同期の濱口君と篠崎君が上智大学ソフィア会で貢献者として顕彰される」ことを紹介するタッチン、「《栄光》で我々は何を学んだか」と問いかけるシンさん、「今日の席には葉山小学校出身者が六人もいる」と自賛したマンちゃん。82歳の老爺連中の各テーブルでの話題も、75年前の終戦前後⇒小・中高・大の時代⇒明日への展望まで、自由奔放に多岐にわたっていきます。

今年は四期生ほぼ全員が《半壽》、それを記念して文集【メモリーズ】が作成、配布されました。五年前の《喜寿》記念【リレー随想】(180頁)に次ぐ、かつての四期ホームページへの寄稿文の宝庫から転載した冊子の第二輯(90頁)です。四期生の誰もが直面した共通体験、第一章『8. 15 あの時、



あの頃、ぼくは・・・』、第二章『中高を共に過ごした《師》や《友》を偲ぶ』、第三章『楽しく歌った《キャンパスソング》の思い出』の三章建ての文集です。(①【メモリーズ】をご希望の同窓生は、四期事務局にご連絡ください。②この冊子の表紙を描いた同期の深澤画伯は、同期会直後の10月9日に急逝しました。黙祷。)

おいしいbuffet料理と呑み放題のアルコールを四卓で楽しみながらの懇談の間に、【メモリーズ】を編集した宙明から、四期事務局としていろいろな報告や相談や要請が披露されました。ただ、事務局からの自薦他薦要請への反応はほぼゼロでした。

写真を撮って散会。多くは当日夜の世界ラグビーの対サモア戦を見るべく三々五々家路を急ぎました。ホテルバーでの二次会は8名参加でした。

6期同窓会(栄光六期傘寿の会)報告

三春勝正 (6期)

6期生は今年3月までに全員80歳を迎えます。昔から長寿を祝う傘寿の年です。3年前に喜寿を記念して同窓会を開きましたが、今回は栄光六期傘寿の会が2020年2月16日(日)にクルーズクルーズ横浜で開催されました。出席者は50名、この年齢での会としてはまずまず大成功だと思います。残念ながら恩師はほとんど亡くなられており、残っておられる先生も高齢で、ご招待は無理との判断で恩師なしでの会となりました。

会の初めに帰天された34名の6期生や恩師の為に黙とうを捧げました。八木さんの挨拶と司会で、三春による乾杯、

集合写真撮影の後、歓談へと会が進められました。

会場はbuffetスタイルの飲み放題で、椅子席がほぼ全員の数だけ準備されており、着席しての楽な飲食ができました。お酒も料理もまだかなり残っていたので皆さん満足されたことと思います。

今回の会を始めるに当たり、懐かしい昔の思い出を中心に八木さんが書かれたお誘いの手紙によって、多くの同級生が60数年以上前の時代を思い起こし、なつかしさに浸ったことと思います。それはその時依頼した出欠の返事に加え、思い出や近況を書いてくれるよう頼んだところ、皆さん多くの思い出や近況を書いてくださったことでわかりました。

もうこの年になるとその当時のことは時効ということで、悪いこと、恥ずかしかったこと等、自分を飾らない文章が多く、それを読むと心打たれる文章が多くありました。皆さんからの文章を配布するためまとめたところ、A4で12pのボリュームになりました。それを見ながら「出席を取ります」と一人一人が立ち上って、全員の顔を確認仕合いました。2時間半の楽しい会はあっというまに過ぎ、角村さんの閉め挨拶で閉会しました。

次回開催について、今回のように祝い歳に開くとすると次回は88歳の「米寿の会」となりますが、今回の参加者からは、そんなには待てない、元気で歩ける2～3年のうちに是非又開いて欲しいとの声が多くありました。

最後に、今回の傘寿の会開催にあたっては、幹事の八木さん、角村さんのご尽力は云うまでもなく、同窓会事務局の前山さん吉田さんには大変お世話になりましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。



6期 傘寿の会

卒業60周年記念7期会

齋藤 肇 (7期)

「卒業60周年記念7期会」は東日本で猛威を振るった台風19号の1週間後令和元年10月19日(土)41名が参加し7年連続となる中華街萬珍楼本店で開催されました。

本年も望月伸一郎校長、稲田順一先生に参加して頂きました。

7期生は昭和34年(1959年)に栄光学園高等学校を卒業し令和元年が卒業60年となります。昭和34年は皇太子御成婚、伊勢湾台風等昭和史に残る記憶に残る出来事があり数々の感慨深い思い出があります。

7期は本年も新年会に始まり新校舎見学会、花見、春秋のゴルフ、飲み会等元気で交流・交際の輪を広げました。

総合司会を務める荻原佳紀君の台風19号に被災された方へのお見舞いの言葉で開宴致しました。「昭和34年に卒業し昭和、平成、令和へと思えば遠くに来たもんです。年を重ねましたが今年も各種イベントを続けました」

6月24日永眠したサッカー一部生駒直樹君に一同黙祷を捧げました。続いて齋藤肇より出席41名、欠席57名、未返信他33名との紹介を行い更に返信ハガキをもとに欠席者の近況報告を致しました。70歳台最後でもありご本人、ご家族の体調不安が目につきます。

引き続き「EACON」への登録、アクセスのお願いを行いました。

また台風19号関連で同期生米澤潤一君が大蔵省時代の昭和52年に「総合治水事業計画」を策定しその目玉としての「鶴見川多目的遊水地」実現に貢献し今台風で多くの河川が氾濫する中で大きな効果を発揮した功労を紹介致しました。

続いて荻原淑薫君の乾杯の発声の後各テーブルごとに歓談に入りました。

準備した「EACON 7期名簿123名」「鶴見川多目的遊水地」「暴れ川」「昭和34年の出来事」の資料を回覧し歓談の話題作りを致しました。

歓談後及能茂道君より挨拶がありました。

「以前に比べ7期会も幹事一同丁寧な対応を心掛けているので参加者も減ることはない。医師である及能先生からは健康とは食べて運動しコミュニティに参加する事である」との貴重な言葉がありました。同期会への参加も高齢者には役に立っているようです。

稲田先生からは「6期から39期まで担任し退任30年となり92歳で教職員最高齢者となりました」と述べられました。続いて望月校長にご挨拶をお願い致しました。望月校長には今春特別に新校舎見学会をご計画頂きお世話になりました。

前週の台風の影響で高三父母会が本日に延期となり父母会でのご挨拶の後当会場に駆けつけて頂きました。

「父母には受験は子供の受験ですよと話しました。この時期の父母のお気持ちも分かる気がします。望月校長は昭和34年生まれで7期とは何かのご縁があるようです。15号台風では校舎は強化ガラスでもあり無事でしたが大船からの栄光坂の大木が倒木しました。現在も通行不能でバスは別路線で運行しています。栄光の縦への繋がりを重視し6月にはブラックホールのチームリーダー38期間希樹君に講演を依頼しました」とのご挨拶を頂きました。

この後何時もの通り金澤洋君指揮のもと「EIKO HIGH FOR EVER」を全員で合唱しました。金澤君からは「最近は何かと物忘れする事が多くなった。認知症になりにくくなる生活を心掛けています。食事、睡眠、人間関係を良くする」と述べました。



卒業60周年記念7期会

最後に来年80歳を迎える7期生に逗子脳神経外科クリニックの医師脊山洋右先生から「認知症は病気であってその患者の半数はアルツハイマー病によるものです。一方MCI(軽度認知障害)は認知度の程度による状態を示す言葉であって病気ではありません。高齢者の4人に1人はMCIとされています」とのコメントを最後に「60周年記念7期会」は幕を閉じました。

次回は2020年10月24日(土)に開催致します。
皆様と元気で再会出来る事を楽しみにしております

9期生「喜寿の会」開催報告

八木英樹 (9期)

令和元年10月15日(火)午前11時。横浜駅西口のホテルに、同期生が三々五々登場です。青木先生が吉田君の、稲田先生が小山君の案内で、そして同窓会の山田会長も予定通りご到着。さらに望月校長も集合写真撮影間に駆けつけて下さいました。無事喜寿を迎えたことを、お互いに祝おうという趣旨の懇親会の幕開きです。

私たち9期生は10数年前から4月と10月の第三火曜日に、それぞれ横浜と東京で集まっています。名付けて三火会。1カ月前に、永年幹事の奥澤君、清水君が9期掲示板に開催のご案内をアップ、都合のつく者が集い、団欒する趣向です。毎回、30~40名が参加しますが、数年前から開催時間が昼になりました。飲んだ後、家路につく通勤客で混む電車に乗るのはシンドイという声が大きくなったからです。

昨年秋の三火会で、東日本大震災直前に催した栄光卒業50周年懇親会同様9期全体に呼び掛け、喜寿の会を開

こうということになりました。8年振りのイベント、前回の92名に対して今回何人が参加するか、幹事団も悩みながら当日を迎えました。

結果は出席の返事があった61名が数名遅刻はあったものの、全員参加！この歳になると「忘れた」、「急に体調を壊した」などでドタキャンが出ること必至と覚悟していたのですが、杞憂に終わりました。

11時半、集合写真撮影。土屋君の指揮で「千里の波濤」を4番まで合唱した後、50周年懇親会以降に逝去された恩師、同期生のお名前を読み上げ黙祷。いよいよ開宴です。各円卓に椅子を配置、席は指定せず、各自お好みの料理を壁際のテーブルから取って、談笑に加わるスタイルは寛げる、多くの旧友と会話が弾むと好評でした。目算外れは、喜寿という年齢を考え、料理は量より質としたところ、皆さんの健康なこと！開宴1時間であらかた料理がなくなりました。

途中、ご来賓にお話をいただきました。先ず望月校長が新校舎以後の母校の様子を披歴して下さいました。次に92歳、ご健在の恩師の中で最長老と何う物理の稲田先生、そして英語の青木先生です。お二方ともに若干足が弱っておられるとのことですが、気力、知力は十分のご様子で、60年前の教え子との会話を花を咲かせていらっしゃいました。同窓会の山田会長から、一桁期生に対する敬意を表すご挨拶をいただきました。

同期生の中で、長年教職にあった利根川君、西君(北京とシンガポールでまだ現役の大学教授です)、吉川君から、体験を踏まえた我が国の教育に関する提言がありました。

宴たけなわでしたが、Eiko High Foreverを合唱してお開き。記念文集と集合写真を手渡しして午後3時に散会となりました。

記念文集には同期生84名、恩師4名からの近況報告、栄



9期喜寿の会

光時代の思い出などに加え、50周年記念文集に投稿し、その後他界した同期生の分を再録しました。故人のご自宅に郵送したところ、それぞれのご令室から丁寧なお礼状をいただきました。皆様に共通するのは、亡くなった夫を今もなお忘れずに、こうした形で生前の文章を通じて偲んでくれたことへの感謝のお気持ちです。

栄光時代の6年間を共に過ごした仲間の絆は、不幸にして先だった者も含め保っていくことの意義を感じました。

26期還暦同窓会報告

下田 陽 (26期)
(写真提供)古谷泰三

26期が28年ぶりの同窓会を開いたのが2016年1月。感涙する者もあらわれるほど盛り上がったため、以降2年おきの開催が定例化しました。今回は還暦祝いを兼ねた特別な会となり、1月4日、26期61人が横浜ベイホテル東急に集いました。

還暦を祝ってくれたのは、5人の先生方。社会科の梅津尚志先生は、♪村の渡しの船頭さんは今年六十のお爺さん♪と、童謡の「船頭さん」をいきなり歌い出し、参加者はしばし嘖然。「60歳になった君たちもわれわれ『お爺さん』の仲間入りです」という、ありがたいようなありがたくないようなお言葉をいただきました。「赴任して初めて授業を担当した26期の同窓会に来るのは怖い」と、化学の金子好光先生は会場を沸かせました。先生は、校長退任後、事務で仕事をさ

れた後65歳でリタイア。その体験から、「定年後のありあまる時間をどう使うか」をご教示いただきました。国語の小宮市郎先生は久しぶりのお目見え。大磯教会で外国人家庭に日本語を教授されているなどの近況の報告がありました。なお同教会では、岩城秀彦も熱心に仕事をしているとのこと。93歳の稲田順一先生(物理)からは、「60歳は二回目的人生の始まり。チャンスがあれば世の中のためになる仕事をしてほしい」とエールをいただきました。体育の迫嘉邦先生は、人生100年計画をテーマに何と11分1秒にわたり還暦以降の体の鍛え方を熱弁！ スーパーマン迫の健康術は素晴らしい内容でしたが、凡百にはとても真似できないというのがもっぱらの評判でした。

同窓会の常として参加者が固定化するうらみがありますが、今回はこれまで同期の会合などに参加してこなかった者が大勢集まりました。そのなかから幹事が18人を選び、壇上で近況報告をしてもらいました。藤原明、藤原敏は揃って登壇。爆笑の渦のなか、「どっちが明？ どっちが敏？」という声が上がっていました。また、「僕は池江璃花子選手と同時期に同じ病と闘い、そして生還しました」という金子秀一の話には、会場は一瞬静まり、そして時を置かず万雷の拍手が沸き起こりました。火浦俊彦は「みんなと会って話をすることで18歳の時の自分に会えると思い参加しました」と挨拶。同様な思いは全員が感じていたに違いありません。人生の節目を迎え、悠々自適の生活に転じた者、会社や職場が変わった者……自らの近況を話し、また学友や恩師の活躍ぶりに耳を傾け、「60歳の原点」をかみしめるうちに会は進行していきました。

中締めのために、同窓会執行委員を務める島崎裕之から



26期還暦同期会

事務連絡がありましたので以下、追記します。

・関西支部設立には26期関係者として山本良一、長谷川哲也が奮戦。26期は関西在住者が多いので、是非とも新支部を盛り上げてもらいたい。

・26期はEACONのパスワード変更率はトップだが、会費の納入率は決して高くはない。未納者は忘れずに納入していただきたい。

・今春はフォス神父帰天30年。5月連休明けの栄光祭では同窓会が企画を行うので、是非足を運んでいただきたい。

次回同窓会は2年後。開催日時、会場、企画などご意見のある方は、島崎まで連絡を。また、連絡が取れない同期の情報もお待ちしています。26期のみなさん、ともに語り、ともに笑い、ともに飲みましょう！

28期同期会報告

石井 尚 (28期)

28期の同期会を2月8日に行いました。当期はほぼ毎年同期会を行っているという実に優秀な学年です(笑)。実は昨年10月に準備していたのですが、台風19号のために中止となってしまいました。たまたま今年が28期の卒業40周年にあたるため、プレ40周年記念同期会として改めて2月に開催することにしました。

今回は台風も雪もなく快晴の同期会日和。まずは「ボーリング大会」を有志12名でハマボールにて実施。部活メンバーでの対抗戦とし2ゲームの総合成績で、1位サッカー部、2

位バスケット部、3位野球&体操部、4位テニス部という結果になりました。賞品として、個人優勝のテニス部青木くんには栄光のロゴの入ったスポーツタオル、2位サッカー部大蔵くんには新校舎を模ったクリスタルなど一般には手に入らない栄光グッズが送られ、みな大喜びでした。

場所を移して「一次会」を横浜ホテルプラムで開催。同期37名が参加し、金子好光先生にもお越しいただきました。

高田くん(現在、栄光学園化学担当教師)の司会により、まずはこれまでに亡くなった同期8名(特に昨年亡くなった金子くん、田内くん)に黙祷。彼らの分まで我々が生きることが、同期皆が心に誓いました。

乾杯後に、高田君から2019年度栄光重大ニュースの報告。台風による栄光坂の崩落、縄跳びのダブルダッチ世界大会で栄光チームが優勝、数学の井本先生がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に登場、などが画像と共に紹介され、参加者からは大きな歓声が沸き起こりました。

ここからは久しぶりに参加する同期による挨拶。中国の蘇州に赴任し春節で帰国した須山くんは、コロナウィスルのために中国に帰ることができず、日本で待機になったおかげで同期会に参加できたという話を披露。スラムダンクの勝利学で有名なスポーツ医学の辻くんからは最近女子ゴルファーの渋野さんに関するコメントを発表した聞き、みな「へえー」を連発。腎臓移植を専門とする医師中村くんは同期の曾山くんの移植担当医であったのに、二人とも手術後も同期だということを知らず、数年前の同窓会で指摘があり初めて判明したという嘘のような本当の話が披露され、二人で仲良く記念撮影が行われました。また、飛び入りの堀先生による古典の授業として「大江山、いく野の道の・・・」という小式部内侍



台風によって仕切り直しとなった28期同期会

の和歌解説が行われ、みな真剣に聞き入りました。28期の中では大木くんによるこの堀先生の物まねは大定番なのですが、事前に古典の勉強をし直してから臨むという熱の入れようで一同は大喝采。締めとして前校長の金子好光先生のお話があり、交通事故で足を痛めたこと、いかに定年後の時間の使い方が難しいことを話され、そう遠くない将来のこととて皆真剣に受け止めました。

最後に、次回幹事を各組から一人ずつ選出し(プラス幹事長1名の計5名体制)、40周年記念として次回当日は学園に植樹することを決め、EIKO High Foreverを皆で肩を組んで合唱しました。そして遅れて参加した山根先生(こちらも定番。柴崎くんの物まね)が「さざ波三本締め」で締め、盛り上がった会を無事終了しました。その後、近くの居酒屋で「二次会」を開催し(22名参加)、21:30に皆で名残惜しく解散となりました。

今回は久しぶりの参加者がいることから、一次会の入口で名札(所属した部活動名も記載)と各人の名刺を胸につけられるように配慮するとともに、欠席者48名のコメント(伝助に入力されたもの)やメールアドレス不明者一覧(現在54名)を配布し、参加者に検索をお願いしました。また、次回40周年記念に配布できるよう、皆さんの思い出を書くアンケートを配り記入してもらいました。

幹事の高田くん、柴崎くん、村松くん、お疲れさまでした。また幹事でないのに協力を惜しまなかった、PC担当の高橋くん、スポーツ担当の石川くん、メールで参加を呼び掛けてくれた青木くんに心から感謝いたします。次回の幹事の青木くん、岩崎くん、岩下くん、悦田くん、藤野くん、次回(今年11月7日予定)は卒業40周年記念で大変ですが、皆で協力していきますので、どうぞよろしく願いいたします。

29期忘年会『宮田町の夜は楽しかった』

前田真孝 (29期)

中路喜之 (29期)

秋になると、同期で集まって飲む宴会の準備をしなくてはという思いが頭を擡げてくる。今年は、開催日を12月21日(土)と決め、場所は「ハマのアメ横」と言われる「松原商店街」(横浜市保土ヶ谷区宮田町)の中に、同期の内藤公貴君が10月に始めた、ハンバーグとカレーをメインに据えたお店『O1grills(オーワングリル)』に決定。「一度は行ってみたい!」という多くの仲間の声に応えることができた。

17時30分ぐらいに、遅れて来る1名を除く15名が揃った。皿にのせられた料理が次々と運ばれる。どれもこれも素晴らしく美味しいものばかりで、料理が出る度に内藤君の料理の腕前に感激する声!当然のように、アルコールの摂取量も増え、おかわりの連発となった。それにしても、みんなよく飲む!29期はまだまだ健在である。まあ、飲める人が自然とこういう場には集まるものなのだと変に納得したり…。暫くして、各自の近況報告。それぞれの場でどのような仕事をしているかの報告があった。中でも、会社経営者として新たな事業に挑戦することを計画しているM君、何社も渡り歩きながらも未だ次の会社を考えているI君は印象的だった。

そして20時30分の貸切営業終了に間に合うように全体の写真撮影の後、帰る人と残る人とに分かれた。

居残ったメンバーに、21時ごろK君が合流。今年のOBゼミを彷彿させるかのように、残った9名を相手に専門の素粒子物理学の話をしてくれた。その分野の日本人研究者が2名もノーベル賞を受賞していて、次の世代の研究者が研究チームの一員としてノーベル賞を何年後かに受賞するかも知れないとK君が話し、それが彼になる可能性があるかも?

という期待をわれわれに抱かせた。参加者もかなり酔いもまわり、22時30分が近づいたところで、店の外で記念写真をとって、二度目のお開き。今回もいつもとは違うメンバーの参加もあつたりして、とても楽しい、それでいてみんなが元気になる会となった。

日程が2019年も押し迫った土曜日で、先約があつたりで参加できなかった人が相当数おり(丁寧な連絡もいただき)、申し訳なく思う。一方で、いろいろな予定を調整して集まってくれた仲間にも改めて感謝。そして、ここで皆さまにお礼を。まず、店を同期の忘年会開催のため



内藤君のお店の前で29期集合写真

に提供してくれた内藤君。また、幹事にも勝る声かけをしてくれたH君とI君(しかも、I君はどうしても都合が付かず欠席だったが、心は参加していると参加費をY君に託した。そのY君からは、幸せの報告)。いろいろなりクエストに応じるために動いてくれたN君や(もう一人の)K君。そして、拙い進行役の幹事に喝を入れてくれたM君やH君。みんなのおかげで、年一回の貴重な会がどんちゃん騒ぎに陥することはなく、有意義なものとなった。そしてイギリスから一時帰国で駆けつけてくれたA君！

幹事も大阪転勤や、教え子の結婚式とバッティングしたりと、言い訳になってしまうが、少しレギュラーだったことを白状する。

今回、いろいろな理由で参加できなかった人は、次回の参加を待っている。

来年も、おそらく晩秋か初冬になると思うが、同期の集まる機会を提供すべく考えている。イベント開催については、できるだけ早めに決定し、EACON(まだの方は参加を！)やフェイスブックなどで告知するので、是非参加してほしい。

今年は39期と一緒に「OBゼミ」を実施し、われわれ29期も5月から11月まで13名の代表が、現役の栄光生に対して講義を行い、これまでの経験を後輩に伝えることができた(おかげさまで大成功)。50代半ばの坂を越した中年親父の我々は、体力の衰えを痛感し始めた(人も多いはず)。時空を超えて、瞬間に「栄光生」に戻れる時間は貴重だと思っている。昔の仲間と交流してお互いに元気を貰おうというのも目的の1つに加わりそうである。自分としては、会える時に会っておかないと・・・という気持ちにもなる。

元気で、また2020年秋か冬に会いましょう！

「嵐呼ぶ39期同窓会」開催報告

伊藤正人 (39期)

10月13日(日)15時30分よりクルーズクルーズYOKOHAMAにて39期同窓会を開催いたしました。

各地に甚大な被害を出した台風19号が関東上陸をした翌日の開催だったため、開催そのものが危ぶまれておりました。当初の開始予定時間を3時間後ろ倒しに変更するという想定外の状況での開催となりました。

当日は交通機関が乱れる中、幹事の心配をよそに、51名の同期、および4名の恩師(林直人先生、関根悦雄先生、望月伸一郎先生、小池正克先生)にも無事にご臨席いただきました。

まずは、関根先生による合図で全員が瞑目。そのまま、乾杯のご発声をいただき会は盛大にスタート。乾杯後は、高3時のクラス別にA組から順番に当時の担任による「出欠確認」というミニイベントを実施(今回は4名の恩師のうち3人が高3時の担任。C組担任の碓井先生はご都合により欠席のため望月先生に代行していただきました)。「はい」の返事の声はまさに当時のままでそれぞれ個性が残っており大変懐かしかったです。

湘南ケーブルネットワークのアナウンサー井手麻実さんが司会を担当し、華やかな雰囲気では進行。この日は海外や地方から戻って参加しているメンバーも多く、久しぶりの再会をお互いに喜びあい、各々近況報告が歓談では行われていました。

また、「出欠ハガキの近況コメント欄をそのままモニターに投影し紹介する演出」や「写真・生徒手帳・卒業アルバムの展示」もあり、参加できなかった39期のことや当時の学園生



39期集合写真

活を思い出せる仕掛けが同期の一体感をとても感じさせました。

会の終盤では、「中間体操」を全員でやるというサプライズイベントも発生(当然上半身は裸！ 見る影もなく年齢とともにその体は変化していたのはいうまでもありません)。

そして、締め挨拶は望月先生よりいただきました。「39期といえば」というエピソードをいくつか披露していただく中で「39期は全力で反抗期を生きていた。そのエネルギーは今でも同じであると感じました」というコメントが個人的には大変印象的で、青春時代の気持ちを思い出すと同時に元気づけられました。

一部のメンバーは3次会まで流れ、ラグビーワールド杯の日本対スコットランド戦をカラオケボックスで観戦。歴史的勝利の美酒を同期とともにするオマケもつき、10月13日のこの同窓会は参加者にとり、忘れられない一日になりました。(一次会の残金25526円は栄光学園の「愛の運動」に寄付しました)

43期同窓会報告

大曲 達夫(43期)

令和元年11月30日(土)、横浜駅近くの「ホテルプラム」宴会場にて、12年振りに43期同窓会が開催されました。卒業25年、43期が43歳になった節目の開催となりました。43期生も不惑を越えて、仕事や家庭も落ち着いてきたことから同窓会参加者も多く、86名が集いました。当日は、43期の担任をしていただいた先生方である望月校長先生、林副校長先生、山本先生、近藤先生、黒木先生、崎村先生、大西先生、高田先生の8名の先生方にもご臨席いただきました。

今回、事前に約90名が入力した近況報告を会場前方に

スライドショーで流す取り組みもあり、前回の同窓会では30代前半で全国にて多忙で参加できなかった医師の同窓出席も今回は多かった一方で、海外勤務で参加できない方が多かった印象でした。残念ながら、当日参加できなかった同窓のために、フェイスブックの43期グループではライブ中継もあり、同窓会幹事団の方々のきめ細かな気配りある開催でした。

同窓会の中盤には、映画監督の井川広太郎君が制作した、新校舎案内も含めた現在の栄光学園の様子を楽しめる動画が公開されました。さすがプロの腕前で、新校舎を拝めていない同窓にも臨場感が伝わる作品でした。

歓談が中断なく続きますが、今回、多数のご出席をいただいた先生方から、ご挨拶いただきました。黒木先生から、参加者を魅了するマジックを披露していただき、会場の雰囲気は温まりました。また、近藤先生からは、43期生が入学合格発表時の筆で書かれた名前発表の最後の学年であったとのお話もいただきました。中学1年当時の担任の先生、望月校長先生、崎村先生、高田先生から、30年前の栄光祭での中学1年生の催し「中1合唱」の逸話(望月校長先生から43期が実は最後の開催となったコメントもいただきました)を、まるで昨日のことのようにお話いただき、懐かしさとともに心温まる一時を過ごさせていただきました。

先生方にエピソードをいただきながら、望月校長先生からは、出席者の中から4名を抽選で選んでいただきまして、次回の43期同窓会の幹事が決まりました。前回同窓会で、3年後開催を目指しましたが、12年が経過しました。今回の同窓会幹事団から、この4月に逝去された関口哲史君のお通夜場で、今年こそ同窓会を開催しようと準備始動に至った旨お話もあり、関口君のご冥福を祈り、全員で黙祷しました。次回の同窓会幹事団も盤石のメンバーで固まり、次回、3年後の開催を目指し、また集うことが決まりました。

予定された2時間はあっという間に過ぎ、最後は、皆で校



歌を合唱し、記念撮影(お忙しい望月校長が帰られた後に撮影となってしまった不手際があり、幹事が申し訳ないと述べておりました)を終え、名残を惜しみつつ、次回同窓会での再会を約して、お開きとなりました。今回参加できなかった方も多数いらっしゃったので、次回の皆様との再会を楽しみにしております。

53期卒業15周年同窓会開催報告

中田 尚 (53期)

令和元年11月30日(土)午後2時より、栄光学園内アロイジオ会館をお借りして、53期同窓会を開催しました。卒業10周年を祝した5年前の同窓会以来の開催となります。全体連絡から開催まで約3ヶ月と比較的短期間で、人数が集まるかと幹事一同危惧していましたが、そんな心配も杞憂に終わり、当日は40名もの同窓生が集まりました。中にはご家族やフィアンセの方を連れての参加者もあり、小さな子ども達が走り回る、賑やかな会となりました。

冒頭、ただ一人だけ15年という時の流れを感じさせない高田先生の乾杯で開宴。そこから各々お菓子とジュースを片手に話に花を咲かせ、15年分のキャッチアップ。とはいえすぐに学生時代のノリを思い出し、ついこないだまで共に過ごしていたような気分にもなりつつ聞く同級生の仕事の話、海外赴任での活躍話や家族・子供の話などは新しくも懐かしい、不思議な感覚がありました。

そんな中、近藤先生がご到着。今や可愛いお孫さんを持ち「親バカならぬ爺バカ」(ご自身のお言葉です)になられた

先生から、こちらも昔と変わらぬユーモア溢れるお話を伺い一同盛り上がったところで、新校舎ツアーへ。手旗を持ちバスガイドさながらの高田先生に連れられ、隈研吾大先輩監修の新校舎を隅から隅までご案内いただきました。立派な校舎に圧倒されつつ、「ここは昔の中学校庭」「ここは昔のマジ小屋」などと、何とか在校時の面影を見つけながら回りました。

また校舎だけでなく、土曜午後にラーニングスペースでPC片手に勉学に励む後輩たちに感銘を受けたり、15年前は同好会だったダブルダッチが今や高校校庭を埋めるほど大所帯の部となって熱心に活動していたり(なんとU19部門で世界一とのこと!)と、在校生見学ツアーとしても楽しむことができました。

その後しばし自由行動となり、それぞれ部活訪問。校舎は新しくなっても部活動エリアは変わらず、昔を懐かしみながら顧問の先生方や在校生と交流しました。

16時過ぎにはアロイジオ会館に戻り、歓談後、高田先生によるテニス部恒例「さざ波三本締め」で閉会。予定していた3時間があつという間に過ぎ、閉館時間を過ぎても会話が尽きず、館内に残り続ける同級生が多々いました。

会の中で大年先生より「社会での活躍もさることながらまずは健康第一。働き過ぎには気を付けて」とのお言葉をいただきました。働き盛りではありますが、皆健康に留意の上、次回(卒業20周年?)また元気に集まれることを楽しみにしています。



支部活動

北京にて若い二人を歓迎

蜂谷龍彦（26期）

北京栄光会は、一時期は清華大学で非常勤講師をされていた9期の大先輩から、清華大学に留学中の57期の現役大学生まで、10名近くが集まる盛況な時もありました。

一人帰任しまた一人帰任し、北京駐在が判明している同窓生は、山本高之氏(34期)、星勇人氏(35期)、原田逸策氏(44期)、小生(26期)の4名だけです。

最近では栄光会という名目ではなく耶蘇会と銘打って広島学院の卒業生とも、ご一緒するようになっています。更に後述の『ジャピオン』を見て栄光会の存在を知り、「自分は栄光OBではないが、息子がお世話になっているので是非参加させていただきたい」と申し出があった澤村氏も昨年より加わっています。偶然ですが澤村氏は星氏の大学サークルの後輩との事。

そんな現地ですが、この度フレッシュな二人が北京入りされました。

まずは昨春卒業した園生悠太君(66期、慶応経済2年、清華大学留学)、そして前述の澤村氏のご子息義景君(72期、中2)が、栄光を休学してお父様のもとへ。

というわけで9月8日に歓迎会を開催いたしました。参加者は従来からのOB4名に園生君、澤村君父子、また、園生君と同じ清華大学に留学中で、且つ原田氏の会社の後輩の上智大学卒・若杉朋子女史が、耶蘇会というくくりで、応援に駆けつけてくれました。

井本陽久先生(36期)もスマホを使ったテレビ電話で飛び入り参加されたり、園生君のお母様と、山本氏が同じ会社で知り合いだということがわかったり、その山本氏も、この11月から北京を離れ、湖北省の武漢へ異動ということが、本人より明らかにされ、盛り上がったり、しみりしたりと充実した歓迎会でした。

そんな訳で？写真は撮り忘れてしまいました。すいません。

追伸：北京の日本人向け情報誌・ジャピオンという週刊で発行されている新聞のようなものに、「栄光会」の案内は掲載されております。

連絡先は、現在、原田氏になっており、アドレスは以下のとおりです。

eiko_beijing@yahoo.co.jp

藤沢栄光会報告(2019年9月16日)

金田 進（20期）

第10回目の藤沢栄光会が、9月16日、前回に引き続きさいか屋8階の中華料理「楼蘭」で開催されました。当日は夜半からの雨が降り続くあいにくの天候でしたが、望月校長、山田同窓会長、鎌倉・茅ヶ崎各栄光会からの来賓、そして、6期から35期までの27名の参加となりました。

第一部の総会では、牧野進一会長(9期)の挨拶の後、長きに亘って勤められた牧野会長はじめ小椋(6期)、河相(8期)、小藤(10期)幹事の退任の報告が有り、次期会長は佐伯賢さん(15期)にバトンタッチされ幹事陣も若干の若返りを



藤沢栄光会

果たしました。

続いて第二部の講演では、最初に望月校長から栄光学園の近況を伺いました。週初めの台風15号の被害が学園周辺でかなり有り、栄光坂は土砂崩れで当分通行ができず、生徒たちはう回路を使つての不自由な通学になっているとのお話でした。ただ新築なった新校舎は全くの無傷との事で、一安心致しました。

続いて松本甲太郎さん(15期)による「宇宙ステーションから月探査ゲートウェイと小惑星探査機“はやぶさ”へ」と題する講演が行われました。長年JAXAで日本の宇宙開発の最前線に携われた方の貴重な情報をお聞きすることができ、今後のはやぶさ2の活躍も、より一層興味深く受け取れるのではと感じられました。

いよいよ懇親会に移り、乾杯の後の歓談食事の合間には、来賓からのご挨拶や報告も行われ、予定の3時間余はあっという間に過ぎました。最後に恒例の新旧校歌の斉唱と記念撮影が有り、1年半後の次回の再会を祈念して無事散会となりました。

第27回JJHAF杯4校サッカー対抗戦 ハギビスの影響により栄光チーム参加できず！

高橋正明 (19期)

毎年恒例の4校サッカー対抗戦ですが、今年は令和元年台風第19号(アジア名:ハギビス/Hagibis)の関東直撃被害を受けました。当初心配されていた開催地福岡の天候には影響がなく、進路がかなり東にそれたため台風上陸の当日(10月12日)にはほとんどすべての航空機が欠航、また新幹線などの鉄道も運行中止決定がなされ交通機関が大混乱に陥り、当日の早朝移動を計画していた多くの参加メンバーが足止めを食らいました。

過去26回の開催実績のある伝統ある大会ですが、台風の影響で中止に追い込まれた事はありません。前代未聞ではありましたが令和元年、第27回目開催の大会は次の通り、無事に福岡で開催されました。

■前夜祭:令和元年10月12日(土)夜

場所:西中州(福岡)

■4校対抗戦:10月13日(日)11:00 開会

場所:上智福岡高校グラウンド

■懇親会:グラウンドでの閉会式終了後、

天神の会場へバス移動、18:00解散

試合は晴天の下、たまたま前日から現地入りしていて移

動交通機関の影響を受けなかった栄光からの参加者2名は、急きょ栄光の代表者として参戦させていただきました。試合は、地元泰星と広島が単独チーム、7名参加の六甲と2名参加の栄光が合同チームを編成し、20分ハーフの総当たりで3試合実施されました。

試合ルールは、恒例のシニア得点加算方式で行い、第三試合が広島 vs 泰星の決選となりましたが、若手のエネルギーが上回る泰星がめでたく地元開催者の初優勝を果たしました。

開催幹事の泰星チームの皆様には、栄光の代表2名が前夜祭および試合後の懇親会も含め、大変お世話になりました。台風発生情報が出たあたりから、さぞや成り行きを心配されたことと思います。会場手配、参加者の人数確認、グラウンド確保など多くの裏方仕事をこなされた上に、台風情報を眺みながら最後まで開催の是非が議論されていたと想像しますが、結果的に台風は東に抜けて、福岡の天候は晴天、関東勢は移動手段を奪われて壊滅状態となり、しかも初優勝を飾られたという事は、持つてる泰星の新伝説の始まりかも知れません。

来年の開催は、中間の六甲開催に戻り、また開催日を今後、11月の1~2週あたりで定例化しようかという話もあるようですが、年号も令和に変わり、気持ちを新たにまた一同優勝を目指そうと心に誓うものであります。参加された皆さん、ご苦労さまでした。

2019年度山岳部OB会総会

水田邦雄 (16期)

山岳部OB会総会・懇親会が10月14日(月、体育の日)、横浜駅東口の崎陽軒本店にて開催されました。心配された台風19号の影響もなく、予定どおり37名の参加が得られました。

総会は、山岳部創設者の天狗さん(故ハンス・シュトルテ神父 1913年10月15日生、2007年8月31日帰天)を偲び、また本年4月に逝去された初代OB会会長小笠原啓祐さん(1期)のご冥福をお祈りする黙祷を皮切りに、菅田栄一会長(5期)の挨拶、幹事の梅田純(16期)による議事事項の説明に移りましたが、今回は会長から辞意の表明があったことから、後任の決定が課題となり、11期の田中泉さんの推薦により10期の岩崎孝之さんが4代目の会長に選任されました。

その後、今も精神科医として診療に当たられ、登山も続けておられる3期の広瀬徹也さんの音頭で乾杯し、恒例の「初



山岳部OB会総会

めて/久しぶりの出席者からの一言」コーナーでは米国在住で偶々帰国されていた3期の鈴木学さんから、部の創設当時の思い出を語って頂いたことをはじめとして、貴重な昔話や、最近のご活躍のご様子を伺うことができました。

懇談は盛会の裡に3時間に及びましたが、最後に現役時代同様声高に「山の男の十の掟」を唱え、「山岳部歌」、「ふるさとの丹沢」「天狗隊の歌」「涸沢の朝夕」を熱唱して会を締めくくりました。なお、会の司会進行は幹事である16期の金子論と17期の宍倉義裕が当たりました。

来年2020年は山岳部発足70年であるとともに廃部45年の節目の年となります。「廃部になって45年経っても元気なOB会」がさらに盛り上がった会となるよう、来年度幹事の18期・19期の活躍を期待して報告を終わります。

物理部OB会総会報告(2019年10月19日)

古谷哲夫 (21期)

物理部OB会の総会を、2019年10月19日に、学園のアロイジオ会館2階大ホールにて開催いたしました。

今回は、15期から67期までの総勢28名の方々にご参加者いただき、物理部の歴史を感じさせられる幅広い年代の方々にご参加いただきました。参加者中、60期代が10名、50期代が8名であり、若手、中堅が多数を占めました。また7名が「総会議長」(幹事役)経験者であり、過去に総会開催に携わった方の総会に対する思い入れを感じさせられました。1990年代頃は学生会員が参加者の大半を占めましたが、近年は「常連」が参加者の比較的多数を占めるようになり、その分参加者の年代層も広がった感があります。もちろん、

今まで参加されず初めて参加される方も毎年のように見られ、今後とも喜んでお迎えしたいと思います。

今回も、14時開会として、会費を安くする代わりに飲食品はお茶菓子程度として、アルコール類は夕食時となる二次会以降のお楽しみとさせていただきます。

乾杯、歓談の後、自己紹介を行いました。特に15期有坂文雄氏には、お父様であり、物理部が大変お世話になった(故)有坂磐雄先生についてのお話をいただきました。有坂磐雄先生は、田浦時代から技術家庭、物理を教えられ、教材を多数製作されました。特に田浦時代には、物理部展の前夜に、部員の帰宅後に展示品を見て回って不具合を手直しされたという話をうかがっています。残念ながら1970(昭和45)年4月に急逝されました。参加者の大半を占めた「職業人」は、研究者、技術者といった「理系」の方と共に、弁護士2名をはじめとした「文系」の方も少なからず見受けられました。

自己紹介後の再度の歓談に、総会の議題として下記の役員選任を行いました。それに続いて、今後の総会開催の見通しをお話して意見を募りました。また、50期徳重氏より、物理部誌ATTO(10⁻¹⁸を意味する)が来年50号を発行するに当たり、OBの寄稿を募集している話がありました。その締め切りは2019年12月31日です。募集要項は、物理部のツイッター<https://twitter.com.eikophysicsclub>に掲載されています。

閉会后、小雨のためアロイジオ会館内で写真撮影を行いました。

今回は、10月1日より郵便料金が値上げされたため、それ以降に返信された方で返信ハガキに1円切手を貼って下さった方にはお手数をお掛けしました。



物理部OB会総会 (2019年10月19日)

議案(役員選任)

- ・会長: 古谷哲夫(21期)
- ・副会長: 斎藤逸郎(39期)
- ・次回総会議長: 会長が兼任

会計報告:

収入: 会費(1,000円×28名)	28,000円
物理部OB会口座より	13,741円
計	41,741円
支出: 通信費(ハガキ代)	23,704円
振込手数料	108円
飲食品代	15,784円
配送料	2,145円
計	41,741円

[連絡]

＝「同窓会員から同窓会事務局に、同期会やOB会開催などのための照会があった場合でも、情報を開示しないことを希望する項目」として、「現住所」を同窓会事務局に届け出られた方へ＝

「物理部OB会総会開催の案内状は、同窓会の名簿データベースを利用して同窓会事務局において宛名を出力して発送しています。この方法によるご案内が不都合な方は、お手数ですが、物理部OB会の役員(会長、副会長、総会議長)にその旨ご連絡ください。」

栄光同窓カトリックの会総会と高垣氏(14期)講演会のご報告

花川泰雄 (11期)

栄光同窓カトリックの会(世話人代表 菅田栄一5期)の第20回総会と高垣洋一郎氏(14期東京大学博士)の講演会が11月4日の午後、カトリック大船教会で開催された。

総会は講師高垣氏を含め22名の会員が出席、代表挨拶の後、昨年度の活動実績の報告と土屋副代表よりイエズス会兄弟校4校長のパネルトークの出席報告(8月開催)として、イエズス会教育理念をどう継承するか、グループで識別しようとする動きがあることが報告された。なお、事務局からは、小池正克氏(22期)が世話人に加わったこと、メールアドレス登録会員や世話人の募集や会員からの企画・提案を求めていることが報告された。

続いて、一般参加者23名を迎えて、高垣洋一郎氏の講演会(演題「ポストゲノム時代のパラダイムシフト」)を開催した。

高垣氏は、遺伝子と染色体、ゲノムの用語と生物学・遺伝学から生化学そしてゲノム科学への歴史の流れを説明し、20世紀の遺伝子決定論とヒトゲノムDNA配列解読結果の新発見を解説された。ゲノムが環境の影響を受けること、遺伝子診断は特定の疾患には有効とはいえ遺伝子治療は全般的に成功とは評価されず、潮流は再生医療に移っていること。

さらに遺伝子改変作物の問題点なども丁寧に説明され、人間の生命を守る上で何が大切か多くの視点と生命科学



栄光同窓カトリックの会
14期高垣氏の講演

の課題を明らかにしていただいた講演会であった。

当日の参加会員は下記の通りである。(敬称略、カッコ内は入学期)

渋木(1)、前川(1)、東海林(2)、梅津(4)、岡(4)、合田(4)、菅田(5)、小金沢(6)、角村(6)、中村(6)、浜田(6)、福井(6)、石川(9)、花川(11)、藤村(11)、土屋(13)、南條(13)、新井(14)、大島(14)、佐野(14)、高垣(14)、久保(16) (一般参加者は略)

野球部OB会報告 OB と現役の正月野球交流

前田善博 (54期)

2020年1月3日、令和最初の正月に毎年恒例となっている栄光野球部OBと現役部員との野球交流を行いました。

「新年栄光野球」と銘打っているこの企画、始まったのは10年以上も前になります。47期の川上さんや柳生さんから周辺の期に対して「新年になったら栄光のグラウンドでキャッチボールでもしようよ」という発案で始まったそうです。数年後には毎年1月3日に固定し、現役部員の有志にも参加してもらうようになりました。OBが久しぶりに母校で汗を流す機会だったのが、OBと現役部員との

交流の場に発展したわけです。2015年に野球部OB会が発足すると対象者が野球部OB全体に広がりました。校舎建替えの時期は開催できませんでしたが、再開された今では毎年20名以上のOBが参加するイベントになりました。

今年2020年の新年栄光野球には、12期から71期の現役部員まで幅広い年代に亘って30数名が参加しました。10時に集合し、現役生の掛け声のもとに準備体操、ランニング、ストレッチを行い、更にキャッチボール、内外野の守備練習を行いました。ここまでで結構ばてた人もいました。次に、戦力が拮抗するよう30数名を2チームに分け、7回戦の対抗試合を実施しました。現役部員の投じるキレのある球にOBが翻弄されるシーンもあれば、大学生OB投手が現役部員を圧倒する圧巻の投球を見せるシーンもありました。メンツをかけた高校生vs中学生の現役対決もありました。図らずも試合は白熱し、1点を争う好ゲームになりました。最終回は逃げ切りか一打逆転かの展開になり、打つほうも守る方も親睦を忘れて真剣になっていました。試合が終わると皆でトンボをもってグラウンド整備をしました。

昼食会は理科校舎の大教室で行われました。ほっともとの弁当を食べながら各自自己紹介をしました。OBは仕事のことや現役時代の思い出を語るとともに現役生へ応援メッセージを送り、現役部員は全国制覇への意気込みを語りOBに期待をもたせて大いに盛り上がりました。



ホームベース前で記念撮影

このイベントを通じて、参加者一同、タテ、ヨコの繋がりを強く感じるとともに、新たな一年の始まりに英気を養うことができました。OBとしては、現役部員が仲間と切磋琢磨して成長し、延いては全国制覇を成し遂げるよう切に願うとともに、現役部員との交流を図りながら今後も彼らのサポートをしていきたいとの意を強くしました。

気の早い話ですが、来年の正月野球は2021年1月3日に開催する予定です。

野球部OBとそこご家族は勿論のこと、野球部以外のOBの参加も大歓迎です。

参加申し込みや詳細の問い合わせは野球部OB会(担当:54期 前田)までお願いします。

茅ヶ崎栄光同窓会新年会の報告

金子 和 (27期)

茅ヶ崎栄光同窓会は1月26日(日)に新年会を開催しました。今年は23名のご出欠のお返事をいただき、13名が参加しました。

本会は「茅ヶ崎を楽しむ同窓会」を謳い、そのひとつとして「茅ヶ崎 美味しいおみせめぐり」を企画し、新年会・総会懇親会の会場を毎回毎回かえながら、美味しい食べ物・飲

み物を囲み、楽しい時間を過ごしております。今回は、茅ヶ崎駅南口からカトリック茅ヶ崎教会に向かう途中のおしゃれなデザインの低層集合住宅の1階にある THE CIRCUS で開催しました。入口では季節ごとにオリジナルのチーズケーキを販売していて人気があります。中は落ち着いた内装でゆったりとした席のそれでいてカジュアルな雰囲気のレストランです。

新年会は、伊藤紀一郎(22期)会長のご挨拶からはじまり、酒井伸雄(2期)さんのご発声による乾杯、参加者全員の近況報告と今年の抱負の発表、最後は山本明德(7期)さんの締めのご挨拶でおわりました。

個人の今年の抱負の中には、重大発表が1件以上ありました。本誌の読者の皆様にはお楽しみということで、成就してから改めてご報告いたします。

本会の今年の抱負は2つです。

1) 4月2日(火) 第3回茅ヶ崎栄光同窓会ゴルフコンペ(平塚富士見カントリークラブ大磯コース)で茅ヶ崎内外の同窓生といっしょにゴルフを楽しみましょう。

2) 6月21日(日)茅ヶ崎海岸地引網会を茅ヶ崎栄光同窓会と藤沢栄光同窓会と27期同窓会で共催し、他地域の同窓生もお誘いし、大勢の同窓生とご家族で楽しみましょう。

1)2)とも参加のお問合せとお申込みは茅ヶ崎栄光同窓会事務局でお受けしております。



茅ヶ崎栄光同窓会 乾杯!

奥左から(敬称略) 杉浦有一(23期) 外池仁(22期) 島崎裕之(26期) 酒井伸雄(2期) 山口洋一郎(13期) 手前右から 伊藤紀一郎(22期) 山本明德(7期) 横谷俊孝(53期) 佐々木克己(21期) 池田幸生(24期) 久芳靖(30期右腕のみ) 壺岐太(32期) 撮影は金子和(27期)

歴史文学散歩

歴史文学散歩(2019年9月26日)

初秋の葉山文学散歩

竹内正敏 (13期)

2019年9月26日(木)にJR逗子駅に集合しました。今回は酷暑の疲れか？常連さんが欠席され15人の参加でした。バスに乗って向原バス停で下車、葉山町図書館で「堀口大学資料室」を見学、堀口は訳詩集「月下の一群」を著し、昭和の文学界に巨大な足跡を残しました。葉山の風光が余程好きだったので、葉山図書館から5分も坂道を下った森戸川に架かる橋の袂に堀口大学の別荘後と碑文が在りました。堀口大学文学碑に続いて「西東三鬼」の句碑を巡ります。「西東三鬼」は栄光ではついで触れなかった俳人で「サイトウサンキ」と読むのだそうです。でも三春さんの案内プリントを読んで驚愕しました。

「恐ろしき君等の乳房夏来る」

「秋の暮れ大魚の骨が海を引く」

恬淡として世相や季節の移ろいを吟じるのが俳句と思っていた私はダリの奇怪な油絵を観るような衝撃を受けました。堀口大学も西東三鬼も葉山の風光を愛しながら作品や業績は全く違います。堀口が明治以来のロマン主義の恵まれた時代に在ったものの三鬼は戦争の前後の荒れた世相の下で過ごしたのです。三鬼の俳句は森戸神社に近い砂浜

にもありました。森戸神社の境内で弁当にして、午後も歩き続けます。お琴の宮城道雄の旧宅を觀て高橋是清邸跡(現在は老健施設)を巡りました。更に團琢磨邸から一色海岸に出て堀口すみれ子邸から御用邸脇を歩いて葉山公園で解散しました。全行程6キロメートル初秋の海風を浴びて体も心も満たされた健康ウォーキングが出来ました。

歴史文学散歩(2019年11月27日)

晩秋の歴史の道金沢道を歩く

鈴木顯一 (6期)

何の因果か、令和元年最後の文學歴史散歩も初回同様、雨に見舞われました。

少な目の参加者ではありましたが(写真)、同窓の集いは、各々異なる分野に身を置いた集団ではあっても「Same Language」を話せる気安さで、毎度のことながら和気藹々の歩く会となりました。

この報告は散歩行程ではなく、心象を綴り、仲間での歴史文學散歩の意味合いに触れてみたいと史料しております。とは謂え『Alumni』の2019年度予定に目を通されていない方もあろうかと、コースのみを申し添えますと～「集合：京急弘明寺駅～弘明寺～乗蓮寺～住吉神社～井土ヶ谷事件跡～大光寺～清水ヶ丘公園～北向地藏～金沢横町～JR保土ヶ谷駅：解散」



歴史文学散歩 (9月26日) 森戸海岸にて



歴史文学散歩(2019年11月27日)

比較的身近にありながら知らぬ歴史跡を尋ねるのは、老いての手習いの如くにて、自らの知識欲を満足させてくれるものです。

神奈川県最古の弘明寺には、行基が彫ったと伝わる重文の十一面観音が祀られます。ここから北に向い約5km、差した道のりではありませんが、途次北条政子開基の寺、生麦事件後に勃発した井土ヶ谷事件、横浜国大跡地の公園、「かなざわかまくら道」絡みの地藏尊像、保土ヶ谷宿の本陣跡、かなざわかまくら道の起点の辻には金沢横丁が、未だにそれなりの町並みを保っています。

弘明寺・保土ヶ谷の近くに住いながら、新しい出会いには興味深く、歴史散歩には感謝させられます。

加えて、歴史文学に触れることの機会の余りなかった栄光Alumni学者/商業/実業家にとっては、過去の史実とそれに纏わる文学に接することで、ほっと清涼の息を吸う機会となり、AIから離れた「人間」を感じさせてくるかと信じます。

この三月晦日には、今年度最後の散歩が「池上本門寺・川端龍子・宇野千代」などを巡り開催されます。

気心の知れた仲間と「無用の用」に触れてみませんか。

2020年度の歴史文学散歩のご案内

三春勝正 (6期)
事業部

同窓会事業部の企画として、三春勝正氏(6期)のご案内のもとに続いている歴史文学散歩の予定をご案内いたします。

年間4回、3回は県内、残る1回は都心部と言うペースで行われています。以前は週末も日程入れたのですが、参加者の多くがリタイヤ組となり、散歩コースは週末の方が混雑するなどもあり、平日の企画となっております。お住まいのお近くのコースもあると思いますので、ご家族の方もお誘いの上、是非ともご参加ください。

なお、悪天候などによる中止、順延等の決定がありますので、ご参加予定の方は、できるだけ事前に連絡先を同窓会事務所か三春様へご連絡ください。

① 新旧の町藤沢明治地区を歩く

実施日:5月26日(火)

集合:JR辻堂駅 北口 10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約6km

JR辻堂駅の北側にある明治地区は、市内13地区では最も面積が小さい地区です。近年、辻堂駅周辺は大型店舗の

辻堂駅北口～ロボ テラス～藤沢浮世絵館～明治市民センター～小笠原東陽墓～耕餘塾の跡～御霊神社～旧三觜八郎右衛門家住宅～羽鳥向八坂神社～四ツ谷八坂神社～四ツ谷不動尊・大山道「一の鳥居」～一里塚跡と松並木～二ツ家稲荷神社～辻堂駅北口鳥居～一里塚跡と松並木～二ツ家稲荷神社～辻堂駅北口

北鎌倉駅集合～浄智寺～天柱峰～葛原岡神～鎌倉中央公園(昼食)～御霊神社～梶原景時の墓～東光寺～大慶寺～等覚寺～陣出の泣塔・洲崎古戦場の碑～湘南深澤駅(解散)

進出が相次ぎ、都市再生事業である湘南C—Xによる新たな町が形成されており大きな変化を見せています。ただこのような変化の反面、藤沢市の教育文化の発祥の地として誇ることができる耕餘塾跡をはじめ、国の重要文化財の養命寺の本造薬師如来坐像、国登録有形文化財(建造物)に指定された旧三觜八郎右衛門家住宅など歴史的に重要な財産も残された地域となっています。

智寺からスタートし、葛原岡神社から鎌倉中央公園などを経て、昼食後は洲崎方面に向かい梶原景時の墓、大慶寺、洲崎古戦場の碑、などを見学します。浄智寺が創建された十三世紀の終わり頃の鎌倉は、北条氏の勢力が極めて盛大で禅宗が栄えた時期でした。

② YRP(横須賀リサーチパーク)見学と横須賀の古刹巡り

実施日:9月24日(木)
集 合:京急YRP野比駅 10時
昼 食:お弁当
解散:15時頃 距離:7.5Km

④ 小石川後樂園から伝通院・礪川公園を歩く

実施日:2021年3月30日(火)
集 合:JR水道橋駅 10時
昼 食:お弁当
解 散:15時頃 距離:5.5Km

京急YRP野比駅～バス～YRP/ドコモ展示場&水辺公園(昼食)～満願寺～腹切りの松～清雲寺～三浦義澄の墓～近殿神社～満昌寺～解散～バス停(衣笠駅・横須賀駅方面)

JR水道橋駅(西口・飯田橋より)～野球博物館～小石川後樂園～牛天神伝～伝通院～こんにやく閻魔～礪川公園～文京シビックセンター～後樂園駅

横須賀リサーチパーク(略称:YRP)は、電波・情報通信技術を中心としたICT(Information and Communications Technology)技術の研究開発拠点として、都心からのアクセスも良好な横須賀市南部の郊外に、1997年10月に開設されました。今回はその中のドコモ R&D センターの見学をいたします。その後中世まで歴史をさかのぼり、三浦一族関連の古刹や史跡を訪ねながらバス停まで歩きます。

散歩のメインは大明庭園の小石川後樂園です。水戸黄門さまのお庭で、池を中心に川、山、田園の風景が組み合わされ、何回訪れても飽きさせない庭園です。

あまり観賞時間を取ると予定時間をオーバーしてしまいそうです。

伝通院から春日局像へと回ると、徳川ゆかりの散歩コースのようになりますが、シビックセンターからの景色が良いので、是非上がってみたいところです。

③ 浄智寺から深沢の旧跡を訪ねる

実施日:11月25日(水)
集 合:北鎌倉駅 10時
昼 食:お弁当
解 散:15時頃 距離:7.0Km

今回のメインは鎌倉の尾根歩きで、鎌倉五山第4位の浄

栄光学園同窓会長 山田宏幸 (30期)

1月末に、飯野先生を訪ねて北海道の北見へ行ってきました。飯野先生は、ご存知の方も多いと思いますが栄光19期生で、大学卒業後に栄光で教鞭を執られ、一昨年の春からは北海道の北見藤女子高校(現在は共学の北見藤高校)で数学、理科といった科目を教えられています。私との関わりですが、大学卒業後初めて教えたのが30期ということもありますし、同窓会活動では、OB教員としてOBゼミなどで同窓会執行部と学園を円滑に繋ぐ重要な役割を担っていただき、さらに学園70周年記念コンサートでは、同窓会役員・教員という2つの立場で流石の差配をしていただきました。

さて、今年の冬は全国的に暖冬で、ご多分に漏れず北海道も暖かいようです。通常北見ではそれほど積雪は多く無く、また気温が低いため雪が降っても粉雪で、風が吹くと飛んでしまうとのこと。(なので、北見の人は、冬は傘を持たないらしい。)ところが今年は積雪が多く、私が訪れた日も北見は雪、さらに最寄りの女満別空港が、なんと雪のため閉鎖されるという事態に。北海道全体が荒れ模様で、羽田でどうすれば北見まで行けるか検討して、旭川に飛びJRでなんとか北見へ。旭川から3時間の列車移動でしたが、乗り鉄系の私としては、ある意味、ちょっと得した気分でした。

翌日は雪の降る中、先生を訪ねて北見藤高校へ。大坪校長先生とも1時間近くお話し、北海道の高校、私学、カトリック校の事情、さらには北見藤高校や同窓会のことなど、参考になる情報をたくさん頂きました。飯野先生とも対談風にお話した後、校舎内を案内していただきました。北見藤高校は、高校だけで1学年140人なので、栄光より当然こじんまりしていますが、新築の校舎で木の温もりがする、ちょっと栄光の校舎にも似た雰囲気のある建物でした。これらの様子は、同窓会ホームページでご覧いただけますので、是非どうぞ。

北見は、近隣の常呂町(カーリング、もぐもぐタイムのロコ・ソラーレ本拠地)などと合併し現在人口11.6万人程度、北海道では最も面積が広い基礎自治体です。北見駅周辺には複数のビジネス系ホテルや結構立派な商店街があり、郊外にはイオンなどの大規模ショッピングモールもあるとのこと。衣料品などそれなりの品物も揃うので、日常特に困ることもなく、先生は案外北見での一人暮らしを気に入っていらっしゃる様子でした。夜は食事をご一緒しましたが、確かに食べ物(飲み物)は美味しいし、先生の好きな写真の素材には事欠かないし…、なるほど。

そんなこともあり、まだ、もう少し北見で教鞭をとられるようです。

● 訃報(2019年9月20日以降判明分)

先生

深澤孝哉先生(書道・4期)2019年10月9日
佐野 威先生(書道・7期)2019年10月29日
M. マギーニャ先生(数学・技術)2020年3月15日

卒業生

鈴木 浩 氏	(8期)	2017年3月17日
本城 真樹 氏	(20期)	2017年7月20日
藤原 幹郎 氏	(6期)	2018年11月5日
秋葉 俊二 様	(9期)	2019年6月15日
生駒 直樹 氏	(7期)	2019年6月24日
瀧川 哲男 氏	(8期)	2019年7月13日
山口 幸男 氏	(14期)	2019年9月23日
山口(旧姓庄司) 明 氏	(18期)	2019年10月12日
清水 征四郎 氏	(10期)	2019年10月13日
田中 達男 氏	(4期)	2019年11月7日
中尾 正信 氏	(12期)	2020年1月27日
加藤 武彦 氏	(5期)	2020年3月1日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第94号):2020年10月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス: admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

令和2年1月末から世を騒がせている新型コロナウイルスの影響により、例年は5月に開催される栄光祭が6月に変更になるとの連絡が、本会報アラムナイ93号の印刷発注後に飛び込んでまいりました。この新型コロナウイルス問題の影響は同窓会関西支部設立総会の延期や、支部会の開催中止、歴史文学散歩の中止などにも及んでおりましたが、年次総会の日程などの会報への記載は修正せざるをえず、印刷所において修正をかけさせていただいています。

新型コロナウイルス問題は世界的な拡大を見せており、国内においてもいまだ先のことがはっきりしない状態が続いています。栄光祭の日程、同窓会の年次総会の予定なども同窓会ホームページから最新情報を確認いただけますようお願い申し上げます。(広報部 高橋)